

科目名 (英)	口腔衛生学Ⅱ Oral Hygiene StudyⅡ	年次	2	必修科目		科目 責任者	一宮 頼子
		授業形態	講義		有		
学科・コース	歯科衛生士科Ⅰ部	時間数	30	授業回数	15	開講区分	前期
		単位	2			曜日/時間	火/3.4限
講師紹介	歯科医師としての臨床経験を有した講師が大学教員の教育経験を踏まえ、歯科衛生士に必要な口腔衛生学Ⅱを講義する。 日本歯科大学 客員教授・口腔衛生学・口腔衛生学会 専門医、代議員						
目的	以下を理解し、歯科臨床との関連について考えることができるようになる。						
科目概要	歯科疾患の全身的要因、生活習慣、社会的要因および環境要因リスクを知り、そのリスクを取り除くことで、口腔の健康と機能の維持増進をはかり、人々の健康状態と生活の質が向上することを理解する。特に成人、高齢者、精神保健、労働衛生に対する政策について理解を深める。						
到達目標	学校健診の流れを説明することができる。 成人、高齢者、精神保健にかかわる施策を列挙できる。 労働衛生の3管理について説明できる。 国際保健の現況を解説することができる。						
評価方法	学則に定める評価とする。100点～90点A(4.0)、89点～80点B(3.0)、79点～70点C(2.0)、69点～60点D(1.0)、59点以下を不合格とする。 ()は、GPA。欠席日数が学則に定める授業時間数の3分の1を超える者は、試験を受けることができない。 ■ 筆記試験 □ 口頭試験 □ 実技試験 □ 論文 □ レポート						
教科書	保健生態学 (医歯薬出版)			事前事後 学習と その内容	毎回講義の冒頭に、前回の小テストを返却し解説を行う。前回の内容をきちんと振り返りしておくことが、解説内容を理解し知識を定着させるためには必須である。		
参考図書	必要に応じて、授業内で紹介する。						
特記事項	なし。						

授 業 計 画			
回数	授業テーマ	授業形態	授業内容
1	ライフステージごとの口腔保健管理	講義	妊産婦・乳幼児期・小児期・成人期・老年期それぞれの口腔保健管理について具体的に説明することができる。
2	地域保健・公衆衛生①	講義	地域保健の主な対象、法令、関係行政機関、主な活動を列挙することができる。地域保健を担う組織の仕組み、特徴を述べるができる。 地域保健の先発機関である保健所と保健センターの違いを対比することができる。
3	地域保健・公衆衛生②	講義	ヘルスプロモーション、ノーマライゼーションについて説明することができる。国際生活機能分類を類別することができる。 地域保健活動の進め方を述べるができる。
4	地域保健・公衆衛生③	講義	健康づくり対策、地域歯科保健の変遷について述べるができる。 「8020運動」、健康日本21について説明することができる。健康増進法、歯科口腔保健推進法、その他保健福祉関連法について記述することができる。
5	母子保健①	講義	わが国の母子保健施策について述べることができる。 市町村と都道府県が実施する母子保健事業の違いを対比することができる。1歳6か月児健康診査と3歳児健康診査の違いを列記することができる。
6	母子保健②	講義	母子健康手帳に記載された口腔に関する内容について説明することができる。1歳6か月児歯科健康診査、3歳児歯科健康診査の内容、事後保健指導について具体的に述べることができる。母子保健に関わる統計値を列記することができる。
7	学校保健①	講義	学校保健の対象を列挙することができる。学校保健統計調査結果で重要な指標の数値を挙げ、学校保健に関わる行政組織と関係する法規を列挙することができる。学校保健を担当する職員とその役割、学校保健の領域構造を記述することができる。
8	学校保健②	講義	学校歯科健康診断の内容について、診断票の記載など具体的に述べることができる。学校歯科健康診断の事後措置について説明できる。
9	成人保健	講義	生活習慣病の特性を述べることができる。 成人保健に関わる行政組織、関係法規を記述することができる。成人保健事業の実際を列挙することができる。
10	産業保健①	講義	産業保健に関わる行政組織、関係法規を述べることができる。職業性疾患の特性を説明することができる。
11	産業保健②	講義	職業性歯科疾患について列挙することができる。産業保健管理、対策を述べることができる。 健康診断およびその事後措置について流れを説明することができる。
12	老人(高齢者)保健	講義	学校歯科健康診断の内容について、診断票の記載など具体的に述べることができる。学校歯科健康診断の事後措置について説明できる。
13	精神保健	講義	精神保健に関わる行政機関を対比することができる。精神障がい者の医療について述べるができる。精神障がい者の歯科保健の特徴を列挙することができる。
14	災害時の歯科保健 国際保健	講義	災害時の医療救護フェーズと保健活動フェーズを列挙できる。国際協力の仕組みを述べることができる。歯科疾患の国際的な状況を説明できる。 国際的な口腔保健目標を具体的に述べることができる。
15	定期試験		筆記試験 講義内容全範囲から出題する。

科目名 (英)	衛生学・公衆衛生学 Hygienics・Public Health	年次	2	必修科目	実務経験	科目 責任者	青山 旬
		授業形態	講義		有	開講区分	
学科・コース	歯科衛生士科 I 部	時間数	15	授業回数	8		曜日/時間
		単位	1			火/1.2限	
講師紹介	歯科医師としての臨床経験や大学教員の教育経験を活かし、歯科衛生士に必要な衛生学・公衆衛生学を講義する。 日本歯科大学衛生学講座非常勤講師。						
目的	歯科衛生士に必要な衛生学・公衆衛生学の基礎知識を習得し、歯科臨床との関連について考えることができるようになる。						
科目概要	衛生学・公衆衛生学の基本的事項を理解し、国民の保健・福祉の向上に寄与するための知識を習得する。						
到達目標	地域保健の意義を理解する。						
評価方法	学則に定める評価とする。100点～90点A (4.0)、89点～80点B (3.0)、79点～70点C (2.0)、69点～60点D (1.0)、59点以下を不合格とする。 ()は、GPA。欠席日数が学則に定める授業時間数の3分の1を超える者は、試験を受けることができない。 ■ 筆記試験 □ 口頭試験 □ 実技試験 □ 論文 □ レポート						
教科書	保健生態学 (医歯薬出版)			事前事後 学習と その内容	事前学習として、教科書の授業に該当するページを読むこと。事後学習として、授業資料を再読すること。授業の最後に小テストを行い、授業で得た知識の確認を行う。		
参考図書	必要に応じて、授業内で紹介する。						
特記事項	授業の終わりに確認テストを実施する。						

授 業 計 画

回数	授業テーマ	授業形態	授業内容
1	地域保健	講義	地域保健の概念を理解する。保健所の業務を説明することができる。 市町村保健センターの業務を理解する。 地域保健計画を説明することができる。
2	母子保健	講義	母子保健の意義を理解する。 わが国の母子保健統計の現状を理解する。 母子保健対策を説明する。
3	学校保健	講義	学校保健の意義を理解する。 学校保健の組織活動を理解する。 健康診断を説明する。
4	成人・老人保健	講義	成人・老人保健の意義を理解する。 生活習慣病の現状と対策を理解する。 成人・老人保健事業、介護保険制度を理解する。
5	産業保健	講義	産業保健の目的を理解する。 産業保健活動の現況を理解する。 職業性疾病を説明する。
6	精神保健	講義	精神保健の意義を理解する。 精神障害患者の現状と動向を説明することができる。 わが国の精神保健対策を理解する。
7	地域保健関連法規	講義	各関連法規を通して地域保健活動の整理・再確認ができる。
8	定期試験		筆記試験 講義内容全範囲から出題する。

科目名 (英)	衛生行政・社会福祉 Administration・Social Welfare Health	年次	2	必修科目	実務経験	科目 責任者	尾崎 哲則/網干 博文 寺嶋 利子/本橋 佳子
		授業形態	講義		有		
学科・コース	歯科衛生士科 I 部	時間数	15	授業回数	8	開講区分	後期
		単位	1			曜日/時間	木/1.2限
講師紹介	歯科医師としての臨床経験や大学教員でもある教育経験を活かし、歯科衛生士に必要な衛生行政・社会福祉を講義する。 尾崎 哲則: 日本歯科医療管理学会理事長・日本大学歯学部元教授。 網干 博文: 日本大学歯学部特任教授。 寺嶋 利子・本橋佳子: 日本大学歯学部非常勤講師。						
目的	将来、歯科衛生士として必要な医療保健制度の概要を理解するとともに、歯科衛生士に関わる法的な知識を習得することを目的とする。						
科目概要	歯科衛生士が業務を行う上で関連する法律・制度等を法令の方向から学んでいく。多くの科目と関連を持っており、また法制度の用語は厳密であるが、根幹を理解できれば、さほど難しいものではない。						
到達目標	社会保障制度、特に社会保険制度について概説できる。 公的医療保険制度を説明することができる。 社会福祉及び介護保険制度を概説できる。 医療及び国民医療費の動向について説明できる。						
評価方法	学則に定める評価とする。100点～90点A (4.0)、89点～80点B (3.0)、79点～70点C (2.0)、69点～60点D (1.0)、59点以下を不合格とする。 ()は、GPA。欠席日数が学則に定める授業時間数の3分の1を超える者は、試験を受けることができない。 <input checked="" type="checkbox"/> 筆記試験 <input type="checkbox"/> 口頭試験 <input type="checkbox"/> 実技試験 <input type="checkbox"/> 論文 <input type="checkbox"/> レポート						
教科書	歯科衛生士と法律・制度 (医歯薬出版)	事前事後 学習と その内容		毎回の授業の後半に小テストを行う。小テストの内容は、当該授業の行動目標であるので、必ず復習を20分程度の時間をかけて行なうこと。次回授業の前に教科書を音読すると、授業を積極的に受けることができる。この時間に20分程度要することが想定される。			
参考図書	必要に応じて、授業内で紹介する。						
特記事項	なし。						

授 業 計 画			
回数	授業テーマ	授業形態	授業内容
1	公的医療保険制度	講義	我が国における各種の公的医療保障制度について理解する。 わが国の公的医療保険を概説できる。
2	介護保険法	講義	我が国の介護保険制度について概説できる。
3	社会福祉制度	講義	我が国における社会福祉制度について概説できる。
4	社会保障制度	講義	我が国の医療以外の社会保障制度について概説できる。
5	歯科衛生士関連業務法	講義	歯科衛生士業務と関連のある健康増進・薬事・食品関連の法規について理解する。
6	衛生行政	講義	我が国の衛生行政の仕組みと関連法規について概説できる。
7	医療の動向・国民医療費	講義	我が国における医療の動向について理解する。 歯科診療医療費の国民医療費での位置づけについて概説できる。
8	定期試験		筆記試験 講義内容全範囲から出題する。

科目名 (英)	保存修復学 Operative Dentistry	年次	2	必修科目	実務経験	科目 責任者	貴美島 哲
		授業形態	講義		有		
学科・コース	歯科衛生士科 I 部	時間数	15	授業回数	8	開講区分	前期
		単位	1			曜日/時間	木/1,2限
講師紹介	歯科医師としての臨床経験や大学教員でもある教育経験を活かし、歯科衛生士に必要な保存修復学を講義する。 【所属】医療法人社団明英会 貴美島デンタルオフィス理事長 【専門分野】保存修復学 【所属学会】日本歯科保存学会、日本接着歯学会、日本歯科理工学会 【執筆】保存修復21、保存修復学 他 【資格】日本歯科保存学会：専門医、指導医、日本歯科理工学会：デンタルマテリアルアドバイザー						
目的	保存修復学の概念ならびに基礎的事項を身につけながら、臨床において求められる知識や施術法を習得する。						
科目概要	保存修復学は歯科保存学の一分野で、う蝕を代表とする硬組織疾患の修復方法や修復材料、さらに疾患の予防・術後のメンテナンスを体系化した学問である。						
到達目標	歯の硬組織疾患の特徴について説明する。 歯冠修復時の前準備について説明する。 各種修復方法について説明する。						
評価方法	学則に定める評価とする。100点～90点A (4.0)、89点～80点B (3.0)、79点～70点C (2.0)、69点～60点D (1.0)、59点以下を不合格とする。 ()は、GPA。欠席日数が学則に定める授業時間数の3分の1を超える者は、試験を受けることができない。 ■ 筆記試験 □ 口頭試験 □ 実技試験 □ 論文 □ レポート						
教科書	保存修復・歯内療法 (医歯薬出版)	事前事後 学習と その内容	前回の小テストを返却し解説を行う。前回の内容をきちんと振り返り、解説内容を理解し知識を定着させることが必須である。				
参考図書	必要に応じて、授業内で紹介する。						
特記事項	なし。						

授 業 計 画			
回数	授業テーマ	授業形態	授業内容
1	硬組織疾患とその検査方法	講義	保存修復学の概要を理解する。また保存修復治療における診査診断を行う際に有用な検査方法を理解する。さらに、う蝕を代表とする硬組織疾患の種類と病態について学習する。
2	窩洞と保存修復治療の流れ	講義	修復材料を保持するために、歯を切削し生じた空間を窩洞という。この窩洞の構成・分類・条件を理解する。また、保存修復の一連の診察の流れを理解する。
3	前準備処置、切削器械・切削具、および歯髄保護	講義	保存修復治療を行う際の前準備、特に歯間分離、歯肉排除、防湿法、隔壁法について理解する。また、歯の切削に使用される器具器材、切削後に行われる歯髄保護法について学習する。
4	セラミックインレー修復・コンポジットレジンインレー修復・ラミネートベニヤ修復について	講義	間接修復、歯冠色修復であるセラミックインレー修復・コンポジットレジンインレー修復・ラミネートベニヤ修復の特徴ならびに歯質への接着手順を理解する。
5	メタルインレー修復とグラスアイオノマーセメント修復について	講義	間接修復法であるメタルインレー修復の特徴、使用される各種合金について理解する。また直接修復であるグラスアイオノマーセメント修復の組成ならびに特徴を理解する。
6	コンポジットレジンの基本的な知識	講義	直接修復材であるコンポジットレジンの組成、種類について学習する。また、コンポジットレジンには歯と接着しないため、接着システムが必要となる。接着システムのメカニズム、種類について理解する。
7	コンポジットレジン修復の特徴	講義	光重合型コンポジットレジンの長所ならびに短所を理解する。また、コンポジットレジンを用いて修復する際に必要な器材や手順を理解する。
8	定期試験		筆記試験 講義内容の全範囲から出題する。

科目名 (英)	歯内療法学 Endodontics	年次	2	必修科目	実務経験	科目 責任者	前田 宗宏
		授業形態	講義		有		
学科・コース	歯科衛生士科 I 部	時間数	15	授業回数	8	開講区分	前期
		単位	1			曜日/時間	木/1,2限
講師紹介	歯科医師としての臨床経験や大学教員でもある教育経験を活かし、歯科衛生士に必要な歯内療法学を講義する。 【所属：日本歯科大学生命歯学部】・【専門分野：歯内療法学】・【所属学会：日本歯科保存学会、米国歯内療法協会、日本歯内療学会】 【主な研究テーマ：炎症惹起歯髄内化学伝達物質への歯科用植物性揮発油類の生成阻害作用】・【分担執筆：歯内治療学第5版(医歯薬出版)他】						
目的	歯内療法を理解するために必要な基礎的事項、治療理論および治療手技について理解する。						
科目概要	歯内療法領域の主な疾患の概要と原因について理解する。歯髄炎、根尖性歯周疾患の症状、治療法を説明できる。						
到達目標	歯科衛生士業務における歯内療法の役割について説明できる。 歯髄疾患および根尖歯周組織疾患の治療法について説明できる。 歯内療法を実施するにあたり必要な器材、薬剤について説明できる。						
評価方法	学則に定める評価とする。100点～90点A(4.0)、89点～80点B(3.0)、79点～70点C(2.0)、69点～60点D(1.0)、59点以下を不合格とする。 ()は、GPA。欠席日数が学則に定める授業時間数の3分の1を超える者は、試験を受けることができない。 ■ 筆記試験 □ 口頭試験 □ 実技試験 □ 論文 □ レポート						
教科書	保存修復・歯内療法 (医歯薬出版)	事前事後 学習と その内容	教科書や講義資料を使用し、授業毎の予習・復習を行うこと。講義内容で分からないことは、質問すること。				
参考図書	必要に応じて、授業内で紹介する。						
特記事項	なし。						

授 業 計 画

回数	授業テーマ	授業形態	授業内容
1	歯内療法を学ぶ上で必要となる齶蝕の概要歯髄の機能、歯根膜や歯槽骨などの解剖学的知識、歯髄炎、根尖性歯周炎について理解する。	講義	歯内療法とはどんな歯科治療なのか？ 歯内療法における歯科衛生士の役割、歯の周囲の解剖 歯髄および根尖歯周組織にあらわれる疾患 歯の検査法
2	歯髄の保存療法について理解する。	講義	歯髄鎮痛消炎療法 覆髄法 a. 間接覆髄法 b. 直接覆髄法 c. 暫間的間接覆髄法] 歯髄の保存療法についての適応症を説明し、使用器材、薬剤など診療の補助に必要な知識を確認
3	歯髄の除去療法(生活歯髄切断法、抜髄法)について理解する。	講義	生活歯髄切断法の適応症、生活歯髄法の術式を確認する。 生活歯髄切断法に使用する器材および薬剤を整理する。 抜髄法の適応症、術式を確認する。 抜髄法に使用する器材および薬剤を整理する。
4	根管治療の術式、使用器材および使用薬剤について理解する。	講義	根管治療の適応症を知る。 根管治療の術式を確認する。 根管治療に使用する器材および薬剤を整理する。 無菌的な治療について説明する。
5	根管充填の術式、使用器材および使用薬剤について理解する。	講義	根管充填の適応症を知る。 根管充填(側方加圧充填、垂直加圧充填、シングルポイント法)の術式を確認する。 根管充填に使用する器材および薬剤を整理する。 根未完成歯の治療(アペキソゲネーシス、アペキシフィケーション)について確認する。
6	歯内療法に用いる器材、薬剤の取扱いについて理解する。 歯内療法施術時の安全対策について理解する。	講義	歯内療法に必要な器材、薬剤について整理する。 歯内療法における安全対策について説明する。 外傷歯の治療について説明する。
7	外科的歯内療法の種類およびその目的について説明できる。	講義	膿瘍切開法、根尖搔爬法、根尖切除法、逆根管充填、歯根切断法、歯根分離法 ヘミセクション、歯の再植法 上記の治療法について、名称および各治療法の目的について説明する。
8	定期試験		筆記試験 講義内容の全範囲から出題する。

科目名 (英)	歯周治療学 Periodontics	年次	2	必修科目	実務経験	科目 責任者	滝口 尚/須田 玲子/菅野 真莉加	
		授業形態	講義		有			
学科・コース	歯科衛生士科 I 部	時間数	15	授業回数	8	開講区分	前期	
		単位	1			曜日/時間	月/3.4限	
講師紹介	歯科医師としての臨床経験や大学教員の教育経験を踏まえ、歯科衛生士に必要な歯周治療学を講義する。 【昭和大学歯学部歯周病学講座所属】【歯周治療学専攻】【臨床経験:須田39年、滝口28年、菅野14年】 【日本歯周病学会指導医・専門医(須田、滝口)、日本歯周病学会認定医(菅野)、日本歯科保存学会専門医(須田)、日本歯科保存学会認定医(滝口、菅野)】【研究:歯周病の病態解明、歯周治療用医療機器の開発など】							
目的	歯科疾患の全身的要因、生活習慣、社会的要因および環境要因リスクを知り、リスクを取り除くことにより、口腔の健康と機能の維持増進をはかり、人々の健康状態と生活の質を向上させることのできる歯科衛生士として社会貢献できるよう知識習得を目的とする。							
科目概要	歯周病は成人以後の主たる抜歯原因であり、歯科医師との共同作業として歯周治療を実践できる歯科衛生士になるための理解を深める。							
到達目標	歯周組織の構造について説明できる。 歯周疾患の原因と分類について説明できる。 歯周治療の流れを説明できる。 歯周基本治療を列挙し、それぞれの特徴を説明できる。							
評価方法	学則に定める評価とする。100点～90点A(4.0)、89点～80点B(3.0)、79点～70点C(2.0)、69点～60点D(1.0)、59点以下を不合格とする。 ()は、GPA。欠席日数が学則に定める授業時間数の3分の1を超える者は、試験を受けることができない。 ■ 筆記試験 □ 口頭試験 □ 実技試験 □ 論文 □ レポート							
教科書	歯周病学 (医歯薬出版)	事前事後 学習と その内容					毎回の授業終わりに講義内容に関する小テストを行う。授業後は可及的にその日のうちに教科書と配布した資料を用いて復習するとより理解が深まり、これに40分程度を要する。また、授業前には授業予定範囲の教科書を音読すると授業を積極的に受けることができる。この時間に10分程度要することが想定される。	
参考図書	ザ・ペリオドントロジー第3版他							
特記事項	【プリント(補助教材)】講義内容を要約したものをスマホキャンパス内にアップする。							

授 業 計 画

回数	授業テーマ	授業形態	授業内容
1	歯周組織の構造や生理 歯周組織に発症する歯肉炎・歯周炎	講義	歯周組織の構造や生理について理解できる。 歯周組織に発症する歯肉炎・歯周炎について理解できる。
2	歯周病の原因(細菌性プラーク、局所性修飾因子、全身性修飾因子)	講義	歯周病の原因(細菌性プラーク、局所性修飾因子、全身性修飾因子)について理解できる。
3	歯周病の診査・診断および病型 歯周医学:歯周病と全身疾患との関連	講義	歯周病の診査・診断および病型について理解できる。 歯周医学:歯周病と全身疾患との関連について理解できる。
4	歯周基本治療	講義	歯周基本治療について理解できる。
5	根分岐部病変 歯周治療における咬合治療	講義	根分岐部病変、歯周治療における咬合治療について理解できる。
6	歯周外科手術の目的と種類	講義	歯周外科手術の目的と種類について理解できる。
7	歯周組織再生療法 咬合機能回復治療とSPT メンテナンス管理	講義	歯周組織再生療法、咬合機能回復治療とSPT、メンテナンス管理について理解できる。
8	定期試験		筆記試験 講義内容全範囲から出題する。

科目名 (英)	歯科補綴学 Dentistry Prosthodontics	年次	2	必修科目	実務経験	科目 責任者	佐藤 貴映
		授業形態	講義		有		
学科・コース	歯科衛生士科 I 部	時間数	15	授業回数	8	開講区分	前期
		単位	1			曜日/時間	木/1.2限
講師紹介	歯科医師としての臨床経験や大学教員の教育経験を活かし、歯科衛生士に必要な歯科補綴学を講義する。 歯学博士 明海大学歯学部非常勤講師 ヘルスサイエンス大学ラオス国立客員教授 ヘルスサイエンス大学カンボジア王国立客員講師 平成5年明海大学歯学部補綴科入局 平成9年和光市にてひかり歯科クリニック開設 平成13年明海大学歯学部歯科薬理学講座入局						
目的	歯科補綴の意義を学術的・臨床的に理解する。						
科目概要	補綴歯科治療は、歯や顎の欠損といった身体の障害を克服して生き生きとした生活が送れるよう支援する医療である。歯科治療の各ステップを修得し、治療前・治療期間中・補綴物装着時・装着後の各々の段階に応じて歯科衛生士が行う診療補助および患者指導を理解する。						
到達目標	歯科補綴の意義と目的を学術的・臨床的に理解する。補綴歯科治療は、歯や顎などの欠損といった身体の障害を克服して、生き生きとした生活が送れるよう支援する医療である。補綴治療の最終目的である補綴装置を製作するための各ステップを他科目とのつながりと共に修得し、治療前、治療期間中、補綴物装着時・装着後の各々の段階に応じて歯科衛生士が行う診療補助および患者指導を理解する。						
評価方法	学則に定める評価とする。100点～90点A (4.0)、89点～80点B (3.0)、79点～70点C (2.0)、69点～60点D (1.0)、59点以下を不合格とする。 ()は、GPA。欠席日数が学則に定める授業時間数の3分の1を超える者は、試験を受けることができない。 ■ 筆記試験 □ 口頭試験 □ 実技試験 □ 論文 □ レポート						
教科書	歯科補綴学 (医歯薬出版)			事前事後 学習と その内容	事前学習として、教科書の授業に該当するページを読むこと。事後学習として、授業資料を再読すること。授業の最後に小テストを行い、授業で得た知識の確認を行う。		
参考図書	必要に応じて、授業内で紹介する。						
特記事項	なし。						

授 業 計 画			
回数	授業テーマ	授業形態	授業内容
1	有床義歯治療 全部床義歯の概要・流れと診療の補助	講義	全部床義歯治療の概要を理解する。 全部床義歯治療の流れと診療の補助を理解する。
2	全部床義歯治療の流れと診療の補助	講義	全部床義歯治療の流れと診療の補助を理解する。
3	全部床義歯治療の流れと診療の補助	講義	全部床義歯治療の流れと診療の補助を理解する。 全部床義歯の患者への説明と指導を理解する。 全部床義歯治療に伴うトラブルとその対応を理解する。
4	部分床義歯治療の流れと診療の補助	講義	部分床義歯治療の概要を理解する。 部分床義歯治療の流れと診療の補助を理解する。
5	部分床義歯治療の流れと診療の補助	講義	部分床義歯治療の流れと診療の補助を理解する。 部分床義歯治療に伴うトラブルとその対応を理解する。
6	インプラント治療	講義	インプラント治療について理解する。
7	特殊な口腔内装置を用いる治療 補綴歯科治療における機材の管理	講義	顎顔面補綴治療の特徴を概説できる。 構音・嚥下機能の補綴治療の特徴を概説できる。 特殊な補綴歯科治療での歯科衛生士の役割を概説できる。
8	定期試験		筆記試験 講義内容全範囲から出題する。

科目名 (英)	口腔外科学 Maxillofacial Surgery	年次	2	必修科目	実務経験	科目 責任者	椋代 義樹
		授業形態	講義		有		
学科・コース	歯科衛生士科 I 部	時間数	15	授業回数	8	開講区分	前期
		単位	1			曜日/時間	月/1.2限
講師紹介	歯科医師としての臨床経験や大学教員の教育経験を踏まえ、歯科衛生士に必要な口腔外科学を講義する。 昭和大学歯学部 講師 (公社)日本口腔外科学会 専門医・指導医						
目的	歯科衛生士として顎・口腔粘膜疾患の診断と治療について理解ができ、特に口腔病変と全身疾患の関連、歯科診療時に注意すべき疾患について理解する。						
科目概要	口腔外科疾患の原因、主要症状、治療法や、歯科麻酔に関する知識を習得し、歯科臨床に応用できる。						
到達目標	口腔外科領域の疾患についての特徴、診断法、治療法について説明できる。 口腔病変と全身疾患との関連について概説できる。 歯科治療時に注意が必要な疾患について説明できる。						
評価方法	学則に定める評価とする。100点～90点A (4.0)、89点～80点B (3.0)、79点～70点C (2.0)、69点～60点D (1.0)、59点以下を不合格とする。 ()は、GPA。欠席日数が学則に定める授業時間数の3分の1を超える者は、試験を受けることができない。 <input checked="" type="checkbox"/> 筆記試験 <input type="checkbox"/> 口頭試験 <input type="checkbox"/> 実技試験 <input type="checkbox"/> 論文 <input type="checkbox"/> レポート						
教科書	口腔外科・歯科麻酔 (医歯薬出版)			事前事後 学習と その内容	毎回の授業内容についてはあらかじめ予習を行うのが望ましい。 加えて、当日の授業内容については、ノート、教科書を見ながら必ず復習すること。毎回の授業終了時に当日の講義内容に関する小テストを行う。		
参考図書	必要に応じて、授業内で紹介する。						
特記事項	なし。						

授 業 計 画			
回数	授業テーマ	授業形態	授業内容
1	腫瘍	講義	顎・口腔領域の腫瘍および腫瘍類似疾患 腫瘍の定義、良性と悪性の腫瘍 腫瘍の分類 歯原性腫瘍
2	腫瘍の分類、腫瘍類似疾患	講義	非歯原性腫瘍 TNM分類 腫瘍類似疾患
3	唾液腺の疾患	講義	唾液腺疾患 唾液と唾液腺 炎症性唾液腺疾患 唾石症 唾液腺腫瘍
4	神経疾患	講義	口腔領域の神経疾患 知覚神経と運動神経 神経痛 神経麻痺 痙攣
5	局所麻酔	講義	歯科治療における麻酔と患者管理① 全身状態の評価 モニタリング バイタルサイン 局所麻酔
6	全身麻酔	講義	歯科治療における麻酔と患者管理② 鎮静法 全身麻酔 救急蘇生法
7	臨床現場での処置	講義	口腔外科診療の実際 診察と診断 清潔と不潔 小手術
8	定期試験		筆記試験 講義内容全範囲から出題する。

科目名 (英)	小児・障がい者学 Pedodontics・Handi capped Person Dentistry	年次	2	必修科目	実務経験	科目 責任者	佐藤 昌史
		授業形態	講義		有	開講区分	
学科・コース	歯科衛生士科 I 部	時間数	15	授業回数	8		曜日/時間
		単位	1			月/3.4限	
講師紹介	歯科医師としての臨床経験や大学教員でもある教育経験を踏まえ、歯科衛生士に必要な小児・障がい者学を講義する。 昭和大学歯学部小児成育歯科学講座の専任教員として30数年、小児・障がい者歯科臨床に携わる。 H31より目白大学短期大学部歯科衛生学科専任教員 日本小児歯科学会(元専門医・指導医)日本障害者歯科学会(元認定医・指導医)						
目的	歯科疾患の全身的要因、生活習慣、社会的要因および環境要因リスクを知り、リスクを取り除くことにより、口腔の健康と機能の維持増進をはかり、人々の健康状態と生活の質を向上させることのできる歯科衛生士として社会貢献できるように知識習得を目的とする。障害者歯科医療に関する基本的な知識を習得するとともに、障害の理解、共感を深めながら歯科衛生士としての支援方法や役割を理解する。						
科目概要	障がい者の現況、各代表的な障害とその特徴、口腔所見、診療時の留意点について学ぶとともに、行動調整法や口腔衛生管理について習得する。						
到達目標	1. 障害の概念や障がい者を取り巻く環境について説明できる。 2. 精神遅滞・身体障害・精神障害の概要と口腔所見の特徴について説明できる。 3. 障害の種類に応じた行動調整法やコミュニケーション方法について説明できる。						
評価方法	学則に定める評価とする。100点～90点A (4.0)、89点～80点B (3.0)、79点～70点C (2.0)、69点～60点D (1.0)、59点以下を不合格とする。 ()は、GPA。欠席日数が学則に定める授業時間数の3分の1を超える者は、試験を受けることができない。 ■ 筆記試験 □ 口頭試験 □ 実技試験 □ 論文 □ レポート						
教科書	障害者歯科学 (医歯薬出版)		事前事後 学習と その内容	事前学習として、当日の学習項目に相当する部分に目を通しておく(30分) 復習としてノートの重要項目をチェック(30分)。			
参考図書	全国歯科衛生士教育協議会						
特記事項	人や症例写真がある講義スライドの写真撮影は禁ずる。						

授 業 計 画			
回数	授業テーマ	授業形態	授業内容
1	障害および障がい者	講義	障害の概念を理解したうえで障がい者(児)を取り巻く環境や障壁、ノーマライゼーションについて学習し、支援体制の概要について理解する。
2	知的能力障害(精神遅滞)	講義	知的能力障害(精神遅滞)における障害の特徴、原因、診療や口腔管理の留意点について学習する。また、精神遅滞を合併する症候群としてDown症などの特徴、口腔内所見、留意点などを理解する。
3	自閉症スペクトラム障害およびその他の発達障害	講義	自閉症スペクトラム障害、学習障害、注意欠落多動障害などを中心に、障害の特徴や診療上の問題点、対応について理解する。
4	神経・運動障害の概要	講義	神経・運動障害の原因について理解し、各々代表的な障害の概要や口腔所見の特徴、診療時の留意点について理解する。
5	精神障害および感覚障害	講義	代表的な精神障害の特徴、診療時の留意点について学ぶ。視聴覚障害の概要及び視聴覚障害を有する患者へのコミュニケーション方法など診療時の対応や留意点について理解する。
6	歯科診療時の対応と行動調整	講義	障がい児者の診療時の基本的な対応について理解するとともに、各種行動調整法の概要について理解する。
7	障害児者の口腔ケアと様々な問題	講義	障がい児者と薬剤、摂食嚥下機能の問題について考え、器質的および機能的口腔ケアの方法や注意点、医療安全などの概要について理解する。
8	定期試験		筆記試験 講義内容の全範囲から出題する。

科目名 (英)	歯科矯正学 Orthodontics	年次	2	必修科目	実務経験	科目 責任者	鬼丸 美菜子
		授業形態	講義		有		
学科・コース	歯科衛生士科 I 部	時間数	15	授業回数	8	開講区分	前期
		単位	1			曜日/時間	月/1.2限
講師紹介	歯科医師として臨床経験や大学教員の教育経験を踏まえ、歯科衛生士に必要な歯科矯正学を講義する。 【所属: 昭和大学歯学部 歯科矯正学講座】・【専門分野: 歯科矯正学】・【所属学会: 日本矯正歯科学会、など】・【研究: 唇顎口蓋裂、など】						
目的	歯科疾患の全身的要因、生活習慣、社会的要因および環境要因リスクを知り、リスクを取り除くことにより、口腔の健康と機能の維持増進をはかり、人々の健康状態と生活の質を向上させることのできる歯科衛生士として社会貢献できるよう知識習得を目的とする。						
科目概要	歯科矯正学の基礎知識の習得と矯正歯科治療における歯科衛生士の業務及び役割について理解する。						
到達目標	矯正歯科治療の概要について説明出来る。矯正歯科治療に関係する成長・発育、正常咬合と不正咬合、診断に必要な知識、メカニズムについて説明できる。矯正歯科臨床で用いる矯正装置、器具・器械を説明出来ると共に、歯科衛生士の役割を理解する。						
評価方法	学則に定める評価とする。100点～90点A (4.0)、89点～80点B (3.0)、79点～70点C (2.0)、69点～60点D (1.0)、59点以下を不合格とする。 ()は、GPA。欠席日数が学則に定める授業時間数の3分の1を超える者は、試験を受けることができない。 ■ 筆記試験 □ 口頭試験 □ 実技試験 □ 論文 □ レポート						
教科書	歯科矯正学 (医歯薬出版)			事前事後 学習と その内容	教科書や講義資料を使用し、授業毎の予習・復習を行うこと。講義内容で分からないことは、質問すること。		
参考図書	第4版ポイントチェック歯科衛生士国家試験対策④						
特記事項	講義内容(PowerPoint)をスマホキャンパス内にアップする。						

授 業 計 画			
回数	授業テーマ	授業形態	授業内容
1	Ⅱ編 矯正歯科治療の実際	講義	上下顎前後的関係の不調和、上下顎の垂直的關係の不調和(過蓋咬合・開咬)を理解する。
2	Ⅱ編 矯正歯科治療の実際	講義	成人矯正、口腔顎顔面の形成異常と変形、歯の埋伏と歯数の異常を理解する。
3	Ⅱ編 矯正歯科治療の実際 Ⅲ編 矯正歯科における歯科衛生士の役割	講義	矯正歯科治療時のトラブルへの対応、健康保険が適用される矯正歯科治療、矯正歯科診断にかかわる業務を理解する。
4	Ⅲ編 矯正歯科における歯科衛生士の役割	講義	矯正歯科診療時の業務を理解する。
5	Ⅲ編 矯正歯科における歯科衛生士の役割	講義	矯正歯科患者と口腔保健管理を理解する。
6	Ⅲ編 矯正歯科における歯科衛生士の役割	講義	口腔筋機能療法、器材、資料、文書の管理を理解する。
7	Ⅱ編 矯正歯科治療の実際 Ⅲ編 矯正歯科における歯科衛生士の役割	講義	Ⅱ編、Ⅲ編の講義内容の復習をする。
8	定期試験		筆記試験 講義内容の全範囲から出題する。

科目名 (英)	高齢者歯科学 Dental Geriatrics	年次	2	必修科目	実務経験	科目 責任者	下平 修/大澤 淡紅子
		授業形態	講義		有		
学科・コース	歯科衛生士科 I 部	時間数	15	授業回数	8	開講区分	後期
		単位	1			曜日/時間	金/1.2限
講師紹介	歯科医師として臨床経験や大学教員の教育経験を踏まえ、歯科衛生士に必要な高齢者歯科学を講義する。 下平 修(昭和大学歯学部高齢者歯科学講座講師):日本老年歯科医学会専門医・日本補綴歯科学会指導医専門医 大澤 淡紅子(昭和大学歯学部高齢者歯科学講座助教):日本インプラント学会専門医						
目的	高齢者が抱える問題点を理解し、安全安心な歯科治療を展開するための知識を理解する。						
科目概要	要介護を含めた高齢者の歯科医療について理解し、歯科臨床に応用できる。						
到達目標	高齢者を取り巻く環境、加齢に伴う心身機能の変化、高齢者に多くみられる疾患について解説、高齢者に発生する全身的な問題を示し、各々への対応について、口腔のケア、摂食・嚥下リハビリテーションを中心に歯科衛生士が取り組むべき具体的な内容を理解できる。						
評価方法	学則に定める評価とする。100点～90点A(4.0)、89点～80点B(3.0)、79点～70点C(2.0)、69点～60点D(1.0)、59点以下を不合格とする。 ()は、GPA。欠席日数が学則に定める授業時間数の3分の1を超える者は、試験を受けることができない。 <input checked="" type="checkbox"/> 筆記試験 <input type="checkbox"/> 口頭試験 <input type="checkbox"/> 実技試験 <input type="checkbox"/> 論文 <input type="checkbox"/> レポート						
教科書	歯科衛生士講座 高齢者歯科学 (永末書店)			事前事後 学習と その内容	事前学習として、教科書の授業に該当するページを読むこと。 事後学習は、小テストと教科書を併せて復習することで理解が深まる。		
参考図書	必要に応じて、授業内で紹介する。						
特記事項	なし。						

授 業 計 画			
回数	授業テーマ	授業形態	授業内容
1	高齢者歯科学の意義 高齢者を取り巻く環境	講義	高齢者歯科医学の目的(高齢者の概念・特性・取り巻く環境に応じた歯科医療)高齢者の社会医学(人口統計学、高齢化の段階)保健・医療・介護の制度(老人医療、老人保健、介護保険)について理解できる。
2	加齢・老化 高齢者の身体機能・心理的機能の変化	講義	加齢の生物学・生物学的老化(老化の定義・機序・分類、ホメオスターシス)各器官の老化(歯、歯周組織、口腔粘膜、唾液腺、口腔感覚、顎骨・筋・顎関節、全身)高齢者の薬物動態(加齢変化、薬物治療の原則)について理解できる。
3	高齢者の口腔衛生管理全身状態の把握と対応	講義	各器官の老化(歯、歯周組織、口腔粘膜、唾液腺、口腔感覚、顎骨・筋・顎関節、全身)に対応した口腔衛生管理の必要性を理解する。高齢者の基礎疾患(循環、精神神経、代謝、消化器、呼吸器、他)と歯科治療時の注意点と踏まえ、全身状態の把握と対応について理解できる。
4	高齢患者における口腔領域の疾患 粘膜疾患・義歯性潰瘍と線維腫高齢者の全身疾患と薬モニタリングとバイタルサイン	講義	各器官の老化(歯、歯周組織、口腔粘膜、唾液腺、口腔感覚、顎骨・筋・顎関節、全身)に伴う高齢患者における口腔領域の疾患、高齢者の薬物動態(加齢変化、薬物治療の原則)を理解する。高齢者の歯科治療の特徴のうち、全身管理について理解できる。
5	往診・歯科訪問診療 訪問歯科保健指導・義歯高齢者における口腔領域の疾患口腔機能の評価法	講義	保健・医療・介護の制度(老人医療、老人保健、介護保険)を理解し、高齢者の診療の場(歯科訪問診療など)について学習する。歯科訪問診療に多くみられる神経内科的疾患(認知症、脳血管障害、変性疾患(パーキンソン病など)、重症筋無力症)について理解できる。
6	摂食・嚥下リハビリテーション栄養管理	講義	摂食・嚥下・発音機能の低下や障害とリハビリテーション、高齢者の栄養学(食生活・栄養確保と健康状態、咀嚼機能と栄養、栄養摂取とその問題点)について理解できる。
7	在宅歯科医療介護施設における口腔機能の維持管理	講義	高齢者の診療の場(歯科訪問診療など)、高齢者の歯科治療の特徴(歯科衛生士の業務内容)を理解できる。
8	定期試験		筆記試験 講義内容全範囲から出題する。

科目名 (英)	歯科予防処置論Ⅲ Dentistry Prevention Measures TheoryⅢ	年次	2	必修科目	実務経験	科目 責任者	近松 史子
		授業形態	講義・演習		有		
学科・コース	歯科衛生士科Ⅰ部	時間数	30	授業回数	15	開講区分	前期
		単位	2			曜日/時間	金/1.2限 3.4限
講師紹介	歯科衛生士として、18年の豊富な臨床経験を活かし、歯科衛生士に必要な歯科予防処置論の専門知識技術習得のための授業を行う。						
目的	歯科衛生士として歯科予防処置(歯および口腔の疾患を予防して健康な状態を維持・増進するために行われる専門的な処置)が実践できるよう知識・技術・実践力を身につける。						
科目概要	患者の口腔内を観察し、各患者に適した治療計画を立て、処置ができるようになる。						
到達目標	歯科衛生士に求められる専門的な予防処置の知識・技術・態度を習得し、実践することができる。 患者実習に必要な、TBI、歯面研磨を正しく行うことができる。						
評価方法	学則に定める評価とする。100点～90点A(4.0)、89点～80点B(3.0)、79点～70点C(2.0)、69点～60点D(1.0)、59点以下を不合格とする。 ()は、GPA。欠席日数が学則に定める授業時間数の3分の1を超える者は、試験を受けることができない。 ■ 筆記試験 □ 口頭試験 □ 実技試験 □ 論文 □ レポート						
教科書	歯科予防処置論・歯科保健指導論 第2版 (医歯薬出版)			事前事後 学習と その内容	事前学習として、教科書の授業に該当するページを読むこと。 事後学習として、配布プリントを再読すること。 授業の最後に小テストを行い、授業で得た知識の確認を行う。		
参考図書	消毒缶一式・顎模型、その他						
特記事項	【プリント(補助教材)】 講義中に配布						

授 業 計 画			
回数	授業テーマ	授業形態	授業内容
1	オリエンテーション 口腔内観察、染め出し、TBI	演習	オリエンテーション 相互実習① 染め出し PCR数値計算 TBI
2	口腔内観察、染め出し、TBI	演習	相互実習① 染め出し PCR数値計算 TBI
3	口腔内観察、染め出し、TBI 歯面研磨	演習	相互実習② 染め出し PCR数値計算 TBI
4	口腔内観察、染め出し、TBI 歯面研磨	演習	相互実習② 染め出し PCR数値計算 TBI
5	口腔内観察、染め出し、TBI エキスポローリング	演習	相互実習③ 染め出し PCR数値計算 TBI
6	口腔内観察、染め出し、TBI エキスポローリング	演習	相互実習③ 染め出し PCR数値計算 TBI 染め出し PCR数値計算 TBI
7	口腔内診査、歯式、プロービング	講義	プロービングの基本 動揺度の測定
8	口腔内診査、歯式、プロービング	演習	プロービングの基本 動揺度の測定
9	実技チェック	演習	授業内で学んだ手技が応用できているか評価する。
10	実技チェック	演習	授業内で学んだ手技が応用できているか評価する。
11	フッ化物応用①	演習	フッ化物によるう蝕予防を説明できる。 フッ化物急性中毒の計算ができる。
12	フッ化物応用②	演習	フッ化物歯面塗布(相互実習)
13	小窩裂溝填塞法①	演習	小窩裂溝填塞法の目的・特徴・術式を理解する。(ラバーダム防湿操作を含む)
14	フッ化ジアンミン銀塗布法①	演習	フッ化ジアンミン銀塗布法の目的・特徴・術式を理解する。
15	定期試験		筆記試験 講義内容の全範囲から出題する。

科目名 (英)	歯科予防処置論Ⅳ Dentistry Prevention Measures TheoryⅣ	年次	2	必修科目	実務経験	科目 責任者	近松 史子
		授業形態	講義・演習		有		
学科・コース	歯科衛生士科Ⅰ部	時間数	30	授業回数	15	開講区分	前期
		単位	2			曜日/時間	金/1.2限 3.4限
講師紹介	歯科衛生士として、18年の豊富な臨床経験を活かし、歯科衛生士に必要な歯科予防処置論の専門知識技術習得のための授業を行う。						
目的	歯科衛生士として歯科予防処置(歯および口腔の疾患を予防して健康な状態を維持・増進するために行われる専門的な処置)が実践できるよう知識・技術・実践力を身につける。						
科目概要	患者の口腔内を観察し、各患者に適した治療計画を立て、処置ができるようになる。						
到達目標	歯科衛生士に求められる専門的な予防処置の知識・技術・態度を習得し、実践することができる。 患者実習に必要な、TBI、歯面研磨を正しく行うことができる。						
評価方法	学則に定める評価とする。100点～90点A(4.0)、89点～80点B(3.0)、79点～70点C(2.0)、69点～60点D(1.0)、59点以下を不合格とする。 ()は、GPA。欠席日数が学則に定める授業時間数の3分の1を超える者は、試験を受けることができない。 ■ 筆記試験 □ 口頭試験 □ 実技試験 □ 論文 □ レポート						
教科書	歯科予防処置論・歯科保健指導論 第2版 (医歯薬出版)			事前事後 学習と その内容	事前学習として、教科書の授業に該当するページを読むこと。 事後学習として、配布プリントを再読すること。 授業の最後に小テストを行い、授業で得た知識の確認を行う。		
参考図書	消毒缶一式・顎模型、その他						
特記事項	【プリント(補助教材)】 講義中に配布						

授 業 計 画			
回数	授業テーマ	授業形態	授業内容
1	小窩裂溝填塞法②	演習	小窩裂溝填塞法を実践できる。
2	フッ化ジアンミン銀塗布法②	演習	フッ化ジアンミン銀塗布法を実践できる。
3	超音波スケーラー・エアスケーラー	演習	超音波スケーラーの種類・特徴・使用方法を理解する。 超音波スケーラーとエアスケーラーの違いを理解する。
4	歯面清掃器	講義	歯面清掃器の特徴・使用方法を理解する。
5	シャープニング	演習	シャープニングの目的・操作方法を理解する。 砥石の種類を理解する。
6	シクルスケーラー操作①	演習	シクルスケーラーの操作方法を理解する。
7	シクルスケーラー操作②	演習	シクルスケーラーの操作方法を実践できる。
8	シクルスケーラー 歯面研磨 フッ化物歯面塗布	演習	シクルスケーラー・歯面研磨・フッ化物歯面塗布の操作方法を実践できる。
9	実技チェック	演習	授業内で学んだ手技が応用できているか評価する。
10	実技チェック	演習	授業内で学んだ手技が応用できているか評価する。
11	患者実習リハーサル	演習	患者実習に向けて実技練習 患者実習の術式を正確に覚える。
12	患者実習リハーサル	演習	患者実習に向けて実技練習 患者実習の術式を正確に覚える。
13	患者実習リハーサル	演習	患者実習に向けて実技練習 患者実習の術式を正確に覚える。
14	患者実習リハーサル	演習	患者実習に向けて実技練習 患者実習の術式を正確に覚える。
15	定期試験		筆記試験 講義内容の全範囲から出題する。

科目名 (英)	歯科予防処置論 V Dentistry Prevention Measures Theory V	年次	2	必修科目	実務経験	科目 責任者	近松 史子
		授業形態	講義・演習		有		
学科・コース	歯科衛生士科 I 部	時間数	15	授業回数	8	開講区分	後期
		単位	1			曜日/時間	月/1.2限 3.4限
講師紹介	歯科衛生士として、18年の豊富な臨床経験を活かし、歯科衛生士に必要な歯科予防処置論の専門知識技術習得のための授業を行う。						
目的	歯科衛生士として歯科予防処置(歯および口腔の疾患を予防して健康な状態を維持・増進するために行われる専門的な処置)が実践できるよう知識・技術・実践力を身につける。						
科目概要	患者の口腔内を観察し、各患者に適した治療計画を立て、処置ができるようになる。						
到達目標	歯科衛生士に求められる専門的な予防処置の知識・技術・態度を習得し、実践することができる。 患者実習に必要な、TBI、歯面研磨を正しく行うことができる。						
評価方法	学則に定める評価とする。100点～90点A(4.0)、89点～80点B(3.0)、79点～70点C(2.0)、69点～60点D(1.0)、59点以下を不合格とする。 ()は、GPA。欠席日数が学則に定める授業時間数の3分の1を超える者は、試験を受けることができない。 ■ 筆記試験 □ 口頭試験 □ 実技試験 □ 論文 □ レポート						
教科書	歯科予防処置論・歯科保健指導論 第2版 (医歯薬出版)			事前事後 学習と その内容	事前学習として、教科書の授業に該当するページを読むこと。 事後学習として、配布プリントを再読すること。 授業の最後に小テストを行い、授業で得た知識の確認を行う。		
参考図書	消毒缶一式・顎模型、その他						
特記事項	【プリント(補助教材)】講義中に配布						

授 業 計 画			
回数	授業テーマ	授業形態	授業内容
1	患者実習リハーサル	講義	患者実習に向けて実技練習 患者実習の術式を正確に覚える。
2	患者実習リハーサル	演習	患者実習に向けて実技練習 患者実習の術式を正確に覚える。
3	患者実習リハーサル	演習	患者実習に向けて実技練習 患者実習の術式を正確に覚える。
4	患者実習リハーサル	演習	患者実習に向けて実技練習 患者実習の術式を正確に覚える。
5	患者実習	演習	1・2年次の集大成として、各処置・各指導を実践する。
6	患者実習	演習	1・2年次の集大成として、各処置・各指導を実践する。
7	患者実習	演習	1・2年次の集大成として、各処置・各指導を実践する。
8	定期試験		筆記試験 講義内容の全範囲から出題する。

科目名 (英)	歯科保健指導論Ⅱ Dentistry Health Guidance Theory II	年次	2	必修科目	実務経験	科目 責任者	相川 奈美
		授業形態	講義・演習		有		
学科・コース	歯科衛生士科Ⅰ部	時間数	30	授業回数	15	開講区分	前期
		単位	2			曜日/時間	火/1,2限
講師紹介	歯科衛生士としての臨床経験と有し、地域住民の健康増進を目的に歯科保健指導を行い貢献してきた。歯牙及び口腔の疾患の予防に取り組み歯科衛生士のスペシャリストを目指すために、歯科衛生士としての目的・重要性の確認と、専門的な知識と技術の基礎を習得する授業を行う。						
目的	歯科疾患の全身的要因、生活習慣、社会的要因および環境要因リスクを知り、リスクを取り除くことにより、口腔の健康と機能の維持増進をはかり、人々の健康状態と生活の質を向上させることのできる歯科衛生士として社会貢献できるよう知識習得を目的とする。						
科目概要	歯科衛生士の業務のひとつである「歯科保健指導」に携わるための知識や技術を習得する科目です。						
到達目標	地域歯科保健事業における歯科衛生士の役割を説明できる。 地域歯科保健における健康教育や保健指導の概要が理解できる。 集団に対する伝達方法を説明できる。 ブラッシングの指導方法を身につける。						
評価方法	学則に定める評価とする。100点～90点A(4.0)、89点～80点B(3.0)、79点～70点C(2.0)、69点～60点D(1.0)、59点以下を不合格とする。 ()は、GPA。欠席日数が学則に定める授業時間数の3分の1を超える者は、試験を受けることができない。 ■ 筆記試験 □ 口頭試験 □ 実技試験 □ 論文 □ レポート						
教科書	歯科予防処置論・歯科保健指導論 第2版 (医歯薬出版)			事前事後 学習と その内容	前回の内容をきちんと振り返り、解説内容を理解し知識を定着させることが必須である。 また授業の最後に小テストを行う。 小テストに出題された問題は重要な部分をピックアップしているのでよく復習すること。		
参考図書	必要に応じて、授業内で紹介する。						
特記事項	なし。						

授 業 計 画			
回数	授業テーマ	授業形態	授業内容
1	集団指導の媒体	講義	地域歯科保健における健康教育や保健指導の概要を理解する。
2	フレイルの原因と進行	講義	フレイルについて フレイルについての健康教育指導案を作成できる。
3	各ライフステージの口腔保健指導	講義	小児やその保護者、高齢者に向けたりーフレットやポスターの媒体作成計画案を考える。
4	集団指導の媒体を作成する①	講義	媒体(健康フェア)ポスター、リーフレットの作成準備ができる。
5	集団指導の媒体を作成する②	講義	各ライフステージの一般的特徴、口腔の特徴、望ましい歯科保健行動をもとに、指導方法について考え、口腔清掃方法の選択と指導ができる。
6	集団指導の媒体を作成する③	講義	各ライフステージの一般的特徴、口腔の特徴、望ましい歯科保健行動をもとに、指導方法について考え、口腔清掃方法の選択と指導ができる。
7	集団指導の媒体を作成する④	講義	各ライフステージの一般的特徴、口腔の特徴、望ましい歯科保健行動をもとに、指導方法について考え、口腔清掃方法の選択と指導ができる。
8	集団指導の媒体を作成する⑤	講義	各ライフステージの一般的特徴、口腔の特徴、望ましい歯科保健行動をもとに、指導方法について考え、口腔清掃方法の選択と指導ができる。
9	集団指導の媒体を作成する⑥	講義	各ライフステージの一般的特徴、口腔の特徴、望ましい歯科保健行動をもとに、指導方法について考え、口腔清掃方法の選択と指導ができる。
10	集団指導の媒体を作成する⑦	演習	各ライフステージの一般的特徴、口腔の特徴、望ましい歯科保健行動をもとに、指導方法について考え、口腔清掃方法の選択と指導ができる。
11	集団指導の媒体を作成する⑧	演習	各ライフステージの一般的特徴、口腔の特徴、望ましい歯科保健行動をもとに、指導方法について考え、口腔清掃方法の選択と指導ができる。
12	歯科衛生アセスメントとしての情報収集と情報整理	講義	対象者からの情報収集・全身の健康状態の把握・認知機能の把握ができる。
13	歯科衛生介入としての歯科保健指導	講義	口腔衛生管理に関わる指導①を理解できる。
14	歯科衛生介入としての歯科保健指導	講義	口腔衛生管理に関わる指導②を理解できる。
15	定期試験		筆記試験 講義内容の全範囲から出題する。

科目名 (英)	歯科保健指導論Ⅲ Dentistry Health Guidance TheoryⅢ	年次	2	必修科目	実務経験	科目 責任者	相川 奈美
		授業形態	講義・演習		有	開講区分	
学科・コース	歯科衛生士科Ⅰ部	時間数	30	授業回数	15		曜日/時間
		単位	2			曜日/時間	
講師紹介	歯科衛生士としての臨床経験と有し、地域住民の健康増進を目的に歯科保健指導を行い貢献してきた。歯牙及び口腔の疾患の予防に取り組み歯科衛生士のスペシャリストを目指すために、歯科衛生士としての目的・重要性の確認と、専門的な知識と技術の基礎を習得する授業を行う。						
目的	歯科疾患の全身的要因、生活習慣、社会的要因および環境要因リスクを知り、リスクを取り除くことにより、口腔の健康と機能の維持増進をはかり、人々の健康状態と生活の質を向上させることのできる歯科衛生士として社会貢献できるよう知識習得を目的とする。						
科目概要	歯科衛生士の業務のひとつである「歯科保健指導」に携わるための知識や技術を習得する科目です。						
到達目標	地域歯科保健事業における歯科衛生士の役割を説明できる。 地域歯科保健における健康教育や保健指導の概要が理解できる。 集団に対する伝達方法を説明できる。 ブラッシングの指導方法を身につける。						
評価方法	学則に定める評価とする。100点～90点A(4.0)、89点～80点B(3.0)、79点～70点C(2.0)、69点～60点D(1.0)、59点以下を不合格とする。 ()は、GPA。欠席日数が学則に定める授業時間数の3分の1を超える者は、試験を受けることができない。 ■ 筆記試験 □ 口頭試験 □ 実技試験 □ 論文 □ レポート						
教科書	歯科予防処置論・歯科保健指導論 第2版 (医歯薬出版)			事前事後 学習と その内容	前回の内容をきちんと振り返り、解説内容を理解し知識を定着させることが必須である。 また授業の最後に小テストを行う。 小テストに出題された問題は重要な部分をピックアップしているのでよく復習すること。		
参考図書	必要に応じて、授業内で紹介する。						
特記事項	なし。						

授 業 計 画			
回数	授業テーマ	授業形態	授業内容
1	う蝕の予防法 (フッ化物・ブラッシング法・歯磨剤等)	講義	ブラッシング法・歯磨剤等について復習し、健康教育媒体作りの参考にする。 スクラビング法における歯みがき指導の実技確認について振返る。
2	う蝕の原因・進行や 歯周病の原因・リスクファクター・進行	講義	う蝕発生に関与する因子を理解し、述べることができる。 歯周病リスクファクターをふまえ、歯周病に関わる細菌、生活習慣を述べるができる。
3	う蝕、歯周病について各グループ発表	講義	グループ発表後に、小学校実習の制作班を決める。 歯の本数(乳歯・永久歯)や萌生時期について理解する。
4	健康教育媒体作り(小学校)①	講義	学齢期における食育について理解する。
5	健康教育媒体作り(小学校)②	講義	対象年齢の口腔保健指導について媒体作成計画案を考える。 学齢期の成長の違いを理解し、指導素案を作成できる。
6	健康教育媒体作り(小学校)③	講義	対象年齢の口腔保健指導について媒体作成計画案を考える。 学齢期の成長の違いを理解し、指導素案を作成できる。
7	健康教育媒体作り(小学校)④	講義	媒体作成
8	健康教育媒体作り(小学校)⑤	講義	媒体作成
9	健康教育媒体作り(小学校)⑥	講義	媒体作成
10	健康教育媒体作り(小学校)⑦	講義	媒体作成
11	健康教育媒体作り(小学校)⑧	講義	媒体作成
12	健康教育媒体作り(小学校)⑨	講義	媒体作成
13	健康教育媒体作り(小学校)⑩	演習	リハーサル
14	健康教育媒体作り(小学校)⑪	演習	リハーサル
15	定期試験		筆記試験 講義内容の全範囲から出題する。

科目名 (英)	歯科診療補助論Ⅲ Dental Examination Assistance TheoryⅢ	年次	2	必修科目	実務経験	科目 責任者	小野塚 孝之
		授業形態	講義・演習		有		
学科・コース	歯科衛生士科Ⅰ部	時間数	30	授業回数	15	開講区分	前期
		単位	2			曜日/時間	水/1.2限 3.4限
講師紹介	歯科衛生士、歯科技工士のダブルライセンスをもち、臨床経験を有した講師が、歯科衛生士に必要な歯科診療補助論Ⅲの講義・演習をする。契約歯科医院にて歯科衛生士業務に従事しつつ、自らの歯科技工所を経営している。						
目的	歯科治療の流れ、器具器材、薬品について知識・技術を習得し、歯科診療が円滑に行われるよう歯科診療の補助が実践できる。						
科目概要	専門的な歯科診療補助のために必要な基礎知識、技術および態度を習得する。						
到達目標	歯科診療の補助が円滑に行われる様に歯科治療の流れを把握し、器具器材、薬品について学習し技術を習得する。						
評価方法	学則に定める評価とする。100点～90点A(4.0)、89点～80点B(3.0)、79点～70点C(2.0)、69点～60点D(1.0)、59点以下を不合格とする。 ()は、GPA。欠席日数が学則に定める授業時間数の3分の1を超える者は、試験を受けることができない。 ■ 筆記試験 □ 口頭試験 □ 実技試験 □ 論文 □ レポート						
教科書	歯科診療補助論 第2版 (医歯薬出版)			事前事後 学習と その内容	毎回の授業終了時に当日の講義内容に関する小テストを行う。毎回の授業内容についてはあらかじめ自習を行うのが望ましい。加えて、当日の授業内容については、ノート、教科書を見ながら必ず復習すること。各回の予習、復習に約30分を要する。		
参考図書	各回必要に応じてスライドなどを用いる。						
特記事項	授業テーマによって各種専門分野の教本を使用する。						

授 業 計 画			
回数	授業テーマ	授業形態	授業内容
1	印象採得	講義	印象採得に使用する器具、材料を正しく取り扱える。対象者に適した声かけと対応が行える。アシスタントと円滑なコミュニケーションがとれる。相互実習にて全顎印象採得(歯列・口蓋・歯肉類移行部)ができる。
2	印象採得	演習	印象採得に使用する器具、材料を正しく取り扱える。対象者に適した声かけと対応が行える。アシスタントと円滑なコミュニケーションがとれる。相互実習にて全顎印象採得(歯列・口蓋・歯肉類移行部)ができる。
3	印象採得	演習	印象採得に使用する器具、材料を正しく取り扱える。対象者に適した声かけと対応が行える。アシスタントと円滑なコミュニケーションがとれる。相互実習にて全顎印象採得(歯列・口蓋・歯肉類移行部)ができる。
4	印象採得	演習	印象採得に使用する器具、材料を正しく取り扱える対象者に適した声かけと対応が行えるアシスタントと円滑なコミュニケーションがとれる。相互実習にて全顎印象採得(歯列・口蓋・歯肉類移行部)ができる。
5	印象採得	演習	印象採得に使用する器具、材料を正しく取り扱える。対象者に適した声かけと対応が行える。アシスタントと円滑なコミュニケーションがとれる。相互実習にて全顎印象採得(歯列・口蓋・歯肉類移行部)ができる。石膏模型(研究用模型)を作れる。
6	印象採得	演習	印象採得に使用する器具、材料を正しく取り扱える。対象者に適した声かけと対応が行える。アシスタントと円滑なコミュニケーションがとれる。相互実習にて全顎印象採得(歯列・口蓋・歯肉類移行部)ができる。石膏模型(研究用模型)を作れる。
7	印象採得	演習	実技チェック:別紙評価表に準じて行動を行う。相互実習にて全顎印象採得(歯列・口蓋・歯肉類移行部)ができる。
8	印象採得	演習	実技チェック:別紙評価表に準じて行動を行う。相互実習にて全顎印象採得(歯列・口蓋・歯肉類移行部)ができる。
9	接着性レジンセメントの取り扱い	演習	接着性レジンセメントを正しく取り扱う事ができる。混和法・筆積み法ができる。(株式会社 サンメディカル)
10	補綴治療時の歯科診療補助	演習	義歯作製時の手順や使用器材の準備と取り扱いが理解できる。咬合採得(顎間関係の記録)について理解できる。義歯装着時に用いる器材や義歯修理に必要な器材の理解。義歯装着後の指導・リライニングとリベースについて理解できる。リライニング材が取り扱える。
11	補綴治療時の歯科診療補助	演習	CADを正しく取り扱うことができる。光学印象採得を適切(全顎歯列)に行うことができる。光学印象採得時のチェアサイドアシスタントワーク(粘膜排除・患者指導)ができる。
12	スポーツ歯科 睡眠時無呼吸症候群	演習	サーモフォーミングについて理解できる。カスタムスポーツマウスガードについて理解、患者指導ができる。ドラッグデリバリートレーについて理解、患者指導ができる。スリープスプリントについて理解、患者指導ができる。
13	プロビショナルレストレーション テンポラリークラウン 余剰セメントの除去	演習	テンポラリークラウンの作製手順が理解できる。ストレートハンドピースを安全に配慮して使用することができる。印象法にてテンポラリークラウンの作製ができる。テンポラリークラウンを仮着後余剰セメントの除去ができる。
14	プロビショナルレストレーション テンポラリークラウン 余剰セメントの除去	演習	テンポラリークラウンの作製手順が理解できる。ストレートハンドピースを安全に配慮して使用することができる。印象法にてテンポラリークラウンの作製ができる。テンポラリークラウンを仮着後余剰セメントの除去の注意点を理解できる。
15	定期試験		筆記試験 講義内容全範囲から出題する。

科目名 (英)	歯科診療補助論Ⅳ Dental Examination Assistance TheoryⅣ	年次	2	必修科目	実務経験	科目 責任者	小野塚 孝之
		授業形態	講義・演習		有		
学科・コース	歯科衛生士科Ⅰ部	時間数	30	授業回数	15	開講区分	前期
		単位	2			曜日/時間	水/1.2限 3.4限
講師紹介	歯科衛生士、歯科技工士のダブルライセンスをもち、臨床経験を有した講師が、歯科衛生士に必要な歯科診療補助論Ⅳの講義・演習をする。契約歯科医院にて歯科衛生士業務に従事しつつ、自らの歯科技工所を経営している。						
目的	歯科治療の流れ、器具器材、薬品について知識・技術を習得し、歯科診療が円滑に行われるよう歯科診療の補助が実践できる。						
科目概要	専門的な歯科診療補助のために必要な基礎知識、技術および態度を習得する。						
到達目標	さまざまなライフステージにおける歯科医療に対応する為に、専門的な歯科医療の補助に関する知識、技術、および態度を習得する。						
評価方法	学則に定める評価とする。100点～90点A(4.0)、89点～80点B(3.0)、79点～70点C(2.0)、69点～60点D(1.0)、59点以下を不合格とする。 ()は、GPA。欠席日数が学則に定める授業時間数の3分の1を超える者は、試験を受けることができない。 ■ 筆記試験 □ 口頭試験 □ 実技試験 □ 論文 □ レポート						
教科書	歯科診療補助論 第2版 (医歯薬出版)			事前事後 学習と その内容	毎回の授業終了時に当日の講義内容に関する小テストを行う。毎回の授業内容についてはあらかじめ自習を行うのが望ましい。加えて、当日の授業内容については、ノート、教科書を見ながら必ず復習すること。各回の予習、復習に約30分を要する。		
参考図書	各回必要に応じてスライドなどを用いる。						
特記事項	授業テーマによって各種専門分野の教本を使用する。						

授 業 計 画			
回数	授業テーマ	授業形態	授業内容
1	口腔外科治療時の歯科診療補助	講義	口腔外科治療の特徴を説明できる。口腔外科治療の手順に沿った器材を準備することができる。部位に応じた抜歯鉗子の選択ができる。縫合針へ縫合糸を適切に装着することができる。
2	口腔外科治療時の歯科診療補助	演習	口腔外科治療の特徴を説明できる。口腔外科治療の手順に沿った器材を準備することができる。部位に応じた抜歯鉗子の選択ができる。縫合針へ縫合糸を適切に装着することができる。
3	歯周外科治療時の歯科診療補助	講義	歯周外科治療の特徴を説明できる。歯周外科治療の手順に沿った器材を準備することができる。
4	歯周外科治療時の歯科診療補助	演習	歯周外科治療の特徴を説明できる。歯周外科治療の手順に沿った器材を準備することができる。
5	歯髄処置と根管治療時の診療補助	講義	歯髄処置の手順を理解できる。歯髄処置の薬剤や器材が理解できる。根管処置時の薬剤や器材が理解できる。シーラーを適切に練和を行う。仮封材の取り扱いができる。
6	歯髄処置と根管治療時の診療補助	演習	歯髄処置の手順を理解できる。歯髄処置の薬剤や器材が理解できる。根管処置時の薬剤や器材が理解できる。シーラーを適切に練和を行う。仮封材の取り扱いができる。
7	エックス線撮影装置と取り扱い	演習	口内法撮影のフィルムの位置づけと固定ができる。パノラマエックス線撮影。写真の画像管理ができる。
8	全身管理とモニタリング 歯科麻酔	演習	バイタルサインの正常と異常を理解する事ができ、バイタルサインの測定ができる。血圧、脈拍、心機能、呼吸のモニタリングができ、全身的偶発症への対応と防止について理解できる。麻酔の特徴を説明できる。歯科麻酔の手順に沿った器材を準備することができる。
9	小児・障がい児歯科治療時の診療補助	演習	小児の状態把握と対応ができる。障がい児の状態把握と対応ができる。障がい児の治療中の体動の調整法を理解できる。治療に必要な器材・薬剤の準備ができる。
10	矯正歯科治療時の診療補助	講義	矯正歯科用器材の種類を理解できる。マルチブラケット法の術式を理解できる。撤去に必要な器具の種類が理解できる。各種矯正装置が理解できる。
11	矯正歯科治療時の診療補助	演習	矯正歯科用器材の種類を理解できる。マルチブラケット法の術式を理解できる。撤去に必要な器具の種類が理解できる。各種矯正装置が理解できる。
12	高齢者の歯科治療時の診療補助	演習	高齢者の状態把握と対応ができる。外来診療と訪問診療の概要を理解できる。口腔衛生管理の概要を理解できる。摂食嚥下障害への対応ができる。
13	要介護高齢者の対応 口腔健康管理	演習	麻痺患者における移乗を安全に配慮し実施できる。車椅子の取り扱いが理解できる。要介護高齢者の口腔衛生管理について理解できる。要介護高齢者の口腔衛生管理が安全に行える。妊婦患者における対応ができる。
14	全身疾患に配慮した対応	演習	周術期の口腔衛生管理が理解できる。周術期の患者対応が理解できる。高齢者の歯科的特徴が理解できる。一般的な高齢者への対応が理解できる。歯科訪問診療における対応ができる。
15	定期試験		筆記試験 講義内容全範囲から出題する。

科目名 (英)	歯科放射線学 Dental Radiology	年次	2	必修科目	実務経験	科目 責任者	荒木 和之
		授業形態	講義		有	開講区分	
学科・コース	歯科衛生士科 I 部	時間数	15	授業回数	8		曜日/時間
		単位	1			月/3.4限	
講師紹介	歯科放射線専門医としての臨床経験や大学教員としての教育経験を活かし、歯科衛生士に必要な歯科放射線学を講義する。 昭和大学特任教授						
目的	歯科疾患の全身的要因、生活習慣、社会的要因および環境要因リスクを知り、リスクを取り除くことにより、口腔の健康と機能の維持増進をはかり、人々の健康状態と生活の質を向上させることのできる歯科衛生士として社会貢献できるよう知識習得を目的とする。						
科目概要	歯科衛生士として求められる歯科放射線の知識を理解する。						
到達目標	放射線(エックス線)の特徴について説明できる。 歯科における画像検査全般について説明できる。 各種エックス線撮影の正常像について説明できる。 患者、術者の放射線防護について説明できる。						
評価方法	学則に定める評価とする。100点～90点A (4.0)、89点～80点B (3.0)、79点～70点C (2.0)、69点～60点D (1.0)、59点以下を不合格とする。 ()は、GPA。欠席日数が学則に定める授業時間数の3分の1を超える者は、試験を受けることができない。 ■ 筆記試験 □ 口頭試験 □ 実技試験 □ 論文 □ レポート						
教科書	歯科放射線学 (医歯薬出版)			事前事後 学習と その内容	事前学習として、教科書の授業に該当するページを読むこと。 事後学習は、小テストと教科書を併せて復習することで理解が深まる。		
参考図書	必要に応じて、授業内で紹介する。						
特記事項	【プリント(補助教材)】各授業ごとにスマホキャンパスにアップする。						

授 業 計 画

回数	授業テーマ	授業形態	授業内容
1	放射線とエックス線の基本的知識	講義	放射線とエックス線の基本的知識を理解する。
2	各種口内法エックス線撮影の手順	講義	各種口内法エックス線撮影の手順を理解する。
3	各種口内法エックス線撮影の正常像	講義	フィルムの現像と保管方法について理解する。 デジタルエックス線撮影システムの特徴について理解する。
4	フィルムの現像と保管方法 デジタルエックス線撮影システム	講義	フィルムの現像と保管方法について覚える。 デジタルエックス線撮影システムについて覚える。
5	パノラマエックス線撮影と正常像	講義	パノラマエックス線撮影と正常像を理解する。
6	口外法エックス線撮影と特殊撮影	講義	口外法エックス線撮影と特殊撮影のそれぞれの特徴について理解する。
7	放射線の人体への影響 放射線防護の理念と実際	講義	放射線の人体への影響について理解する。 放射線防護の理念と実際を理解する。
8	定期試験		筆記試験 講義内容全範囲から出題する。

科目名 (英)	臨床実習 I Clinical Practice I	年次	2	必修科目	実務経験	科目 責任者	各臨床実習先指導者教員
		授業形態	臨床実習		有		
学科・コース	歯科衛生士科 I 部	時間数	270	授業回数	-	開講区分	後期
		単位	6			曜日/時間	月・火・水・金・(土)/基本9:00~17:00
講師紹介	【各臨床実習先指導者教員】 歯科衛生に関し相当の臨床経験を有する歯科医師又は歯科衛生士とし、そのうち少なくとも一人は免許を受けた後4年以上業務に従事し、十分な指導能力を有する者である。						
目的	以下を理解し、歯科臨床との関連について考えることができるようになる。						
科目概要	臨床現場で今までの学習を総合的にとらえ、歯科臨床に応用できる。						
到達目標	①実習先のスタッフや、患者様とのコミュニケーションがとれるようになる。 ②チェアサイドアシスタントワーク(器具受け渡し)ができるようになる。						
評価方法	学則に定める評価とする。100点~90点A(4.0)、89点~80点B(3.0)、79点~70点C(2.0)、69点~60点D(1.0)、59点以下を不合格とする。 ()は、GPA。欠席日数が学則に定める授業時間数の3分の1を超える者は、試験を受けることができない。 <input type="checkbox"/> 筆記試験 <input type="checkbox"/> 口頭試験 <input type="checkbox"/> 実技試験 <input type="checkbox"/> 論文 <input checked="" type="checkbox"/> レポート						
教科書	各教科の教科書 臨床実習ノート			事前事後 学習と その内容	前日迄に、目標を定め臨床実習ノートに記入をする。 わからなかった語句、内容は教科書で調べ翌日以降の臨床実習に繋げることが必要である。		
参考図書	今までに使用したノートや教科書						
特記事項	なし。						

授 業 計 画			
回数	授業テーマ	授業形態	授業内容
1	歯科診療所実習 歯科診療所	臨床実習	歯科医療現場で、歯科衛生士業務を理解し実践する。
2	歯科大学病院実習 昭和大学歯科病院 鶴見大学歯学部附属病院	臨床実習	歯科病院における臨床実習で各科の歯科衛生士業務に必要な事柄を理解し、実際の診療に参加および見学することにより知識、態度、技術を身につける。
3	保健所実習 保健所・保健センター	臨床実習	公衆衛生の現場にて、歯科支援を学ぶ。
4	保育所・幼稚園実習 保育所・幼稚園	臨床実習	幼児に対する口腔衛生指導を実施する。
5	小学校実習 小学校	臨床実習	児童に対する口腔衛生指導を実施する。
6	高齢者施設実習 特別養護老人ホーム	臨床実習	高齢者に対する口腔ケアおよび口腔衛生指導等の対応を学ぶ。
7	障がい者施設実習 心身障害者 口腔保健センター	臨床実習	障がい者・障がい児に対して歯科支援の場においての対応を学ぶ。
8	地域保健実習 品川区、大田区、川崎市	臨床実習	公衆衛生の現場で健康教育等の実践をする。

科目名 (英)	衛生学・公衆衛生学 基礎 Basic Hygienics・Public Health	年次	2	必修科目	実務経験	科目 責任者	青山 旬
		授業形態	講義		有	開講区分	
学科・コース	歯科衛生士科 I 部	時間数	15	授業回数	8		曜日/時間
		単位	1			火/1.2限	
講師紹介	歯科医師としての臨床経験や大学教員の教育経験を活かし、歯科衛生士に必要な衛生学・公衆衛生学 基礎を講義する。 日本歯科大学衛生学講座非常勤講師						
目的	歯科衛生士に必要な衛生学・公衆衛生学の基礎知識を習得し、歯科臨床との関連について考えることができるようになる。						
科目概要	ヒトを取り巻く環境、健康問題および関連法規や制度について理解を深める。						
到達目標	公衆衛生学の考え方・意義を説明することができる。 健康と疫病の概念を説明することができる。						
評価方法	学則に定める評価とする。100点～90点A (4.0)、89点～80点B (3.0)、79点～70点C (2.0)、69点～60点D (1.0)、59点以下を不合格とする。 ()は、GPA。欠席日数が学則に定める授業時間数の3分の1を超える者は、試験を受けることができない。 ■ 筆記試験 □ 口頭試験 □ 実技試験 □ 論文 □ レポート						
教科書	保健生態学 (医歯薬出版)			事前事後 学習と その内容	事前学習として、教科書の授業に該当するページを読むこと。事後学習として、配布プリントを再読すること。授業の最後に小テストを行い、授業で得た知識の確認を行う。		
参考図書	必要に応じて、授業内で紹介する。						
特記事項	授業の終わりに確認テストを実施する。						

授 業 計 画			
回数	授業テーマ	授業形態	授業内容
1	総論	講義	衛生学・公衆衛生学の考え方と意義を理解する。健康と疾病の概念を理解する。
2	人口	講義	主な保健医療統計について理解する。我が国の人口動態について現状を理解する。
3	環境と健康1	講義	健康と環境の関連を理解する。
4	環境と健康2	講義	環境汚染の現状を理解するために、その原因と対策について説明することができる。
5	疫学	講義	疫学の方法を理解し、調査研究の方法を理解する。
6	感染症	講義	感染症成立の要因を理解する。感染症の動向と対策を理解する。
7	食品と健康	講義	食品保健の目的を理解する。我が国の食生活の現状と対策を理解する。
8	定期試験		筆記試験 講義内容全範囲から出題する。

科目名 (英)	衛生行政・社会福祉 基礎 Basic Administration・Social Welfare Health	年次	2	必修科目	実務経験	科目 責任者	尾崎 哲則/網干 博文 寺嶋 利子/本橋 佳子
		授業形態	講義		有	開講区分	後期
学科・コース	歯科衛生士科 I 部	時間数	15	授業回数	8		
		単位	1				
講師紹介	歯科医師としての臨床経験や大学教員でもある教育経験を活かし、歯科衛生士に必要な衛生行政・社会福祉 基礎を講義する。 尾崎 哲則: 日本歯科医療管理学会理事長・日本大学歯学部元教授。 網干 博文: 日本大学歯学部特任教授。 寺嶋 利子・本橋 佳子: 日本大学歯学部非常勤講師。						
目的	将来、歯科衛生士として必要な医療保健制度の概要を理解するとともに、歯科衛生士に関わる法的な知識を習得することを目的とする。						
科目概要	歯科衛生士が業務を行う上で関連する法律・制度等を法令の方向から学んでいく。多くの科目と関連を持っており、また法制度の用語は厳密であるが、根幹を理解できれば、さほど難しいものではない。						
到達目標	社会保障制度、特に社会保険制度について概説できる。 公的医療保険制度を説明することができる。 法体系を説明できる。 福祉・介護制度を概説できる。						
評価方法	学則に定める評価とする。100点～90点A (4.0)、89点～80点B (3.0)、79点～70点C (2.0)、69点～60点D (1.0)、59点以下を不合格とする。 ()は、GPA。欠席日数が学則に定める授業時間数の3分の1を超える者は、試験を受けることができない。 <input checked="" type="checkbox"/> 筆記試験 <input type="checkbox"/> 口頭試験 <input type="checkbox"/> 実技試験 <input type="checkbox"/> 論文 <input type="checkbox"/> レポート						
教科書	歯科衛生士と法律・制度 第3版 (医歯薬出版)			事前事後 学習と その内容	毎回の授業の後半に小テストを行う。小テストの内容は、当該授業の行動目標であるので、必ず復習を20分程度の時間をかけて行うこと。次回授業の前に教科書を音読すると、授業を積極的に受けることができる。この時間に20分程度要することが想定される。		
参考図書	必要に応じて、授業内で紹介する。						
特記事項	なし。						

授 業 計 画			
回数	授業テーマ	授業形態	授業内容
1	歯科衛生士法	講義	歯科衛生士の業務を述べるができる。 歯科衛生士の欠格事由を挙げることができる。 歯科衛生士としての届出等について概説できる。
2	衛生行政・法体系	講義	衛生行政・社会福祉という教科の概要を知る。 我が国の法律体系について説明ができる。
3	歯科医師法・歯科技工士法	講義	歯科医師法および歯科技工士法について理解する。
4	医療関係職種	講義	歯科以外の医療関係者についての関連法規を知る。 歯科以外の医療職種の法的な業務について理解する。
5	医療法	講義	医療法の基本的な事項について概説できる。
6	社会保障と公的扶助	講義	我が国における社会保障制度の概要について理解する。公的扶助という制度について理解する。
7	社会保険制度	講義	我が国の社会保険制度について概説できる。年金保険制度・雇用保険制度・労働者災害補償保険制度について理解する。
8	定期試験		筆記試験 講義内容全範囲から出題する。

科目名 (英)	歯科補綴学 基礎 Basic Dentistry Prosthodontics	年次	2	必修科目	実務経験	科目 責任者	佐藤 貴映
		授業形態	講義		有	開講区分	
学科・コース	歯科衛生士科 I 部	時間数	15	授業回数	8		曜日/時間
		単位	1			木/1.2限目	
講師紹介	歯科医師としての臨床経験や大学教員の教育経験を活かし、歯科衛生士に必要な歯科補綴学 基礎を講義する。 歯学博士 明海大学歯学部非常勤講師 ヘルスサイエンス大学ラオス国立客員教授 ヘルスサイエンス大学カンボジア王国立客員講師 平成5年明海大学歯学部補綴科入局 平成9年和光市にてひかり歯科クリニック開設 平成13年明海大学歯学部歯科薬理学講座入局						
目的	歯科補綴の意義を学術的・臨床的に理解する。						
科目概要	補綴歯科治療の流れやその種類と歯科衛生士の果たす役割について理解する。						
到達目標	歯科補綴の意義と目的を学術的・臨床的に理解する。 補綴歯科治療は、歯や顎などの欠損といった身体の障害を克服して、生き生きとした生活が送れるよう支援する医療である。 補綴治療の各ステップを修得し、治療前、治療期間中、補綴物装着時・装着後の各々の段階に応じて歯科衛生士が行う診療補助および患者指導を理解する。						
評価方法	学則に定める評価とする。100点～90点A (4.0)、89点～80点B (3.0)、79点～70点C (2.0)、69点～60点D (1.0)、59点以下を不合格とする。 ()は、GPA。欠席日数が学則に定める授業時間数の3分の1を超える者は、試験を受けることができない。 ■ 筆記試験 □ 口頭試験 □ 実技試験 □ 論文 □ レポート						
教科書	歯科補綴学 (医歯薬出版)		事前事後 学習と その内容	事前学習として、教科書の授業に該当するページを読むこと。事後学習として、授業資料を再読すること。授業の最後に小テストを行い、授業で得た知識の確認を行う。			
参考図書	必要に応じて、授業内で紹介する。						
特記事項	なし。						

授 業 計 画			
回数	授業テーマ	授業形態	授業内容
1	歯科補綴の概要 補綴歯科治療の方法と補綴装置	講義	補綴歯科治療の意義と目的を理解する。 補綴歯科治療の方法と補綴装置(クラウン・ブリッジ)を理解する。
2	補綴歯科治療の方法と補綴装置	講義	補綴歯科治療の方法と補綴装置(全部床義歯・部分床義歯・インプラント・顎義歯)を理解する。 補綴歯科治療における歯科衛生士の役割を理解する。
3	補綴歯科治療の基礎知識	講義	歯列と咬合を理解する。 補綴学的基準平面を理解する。 口腔の機能を理解する。 顎関節の構造・機能と病態を理解する。
4	補綴歯科治療における検査	講義	補綴歯科治療における検査を理解する。 咬合と顎口腔機能の検査について理解する。
5	クラウン・ブリッジ治療	講義	クラウン・ブリッジ治療の概要を理解する□ Cad/Camクラウン・ブリッジ治療の概要を理解する。
6	クラウン・ブリッジ治療	講義	クラウン・ブリッジ治療の流れと診療の補助を理解する。 Cad/Camクラウン・ブリッジ治療の流れを理解する。
7	クラウン・ブリッジ治療	講義	患者への説明と指導を理解する。 クラウン・ブリッジ治療に伴うトラブルとその対応を理解する。
8	定期試験		筆記試験 講義内容全範囲から出題する。

科目名 (英)	口腔外科学 基礎 Basic Maxillofacial Surgery	年次	2	必修科目	実務経験	科目 責任者	椋代 義樹
		授業形態	講義		有		
学科・コース	歯科衛生士科 I 部	時間数	15	授業回数	8	開講区分	前期
		単位	1			曜日/時間	月/1.2限
講師紹介	歯科医師としての臨床経験や大学教員の教育経験を踏まえ、歯科衛生士に必要な口腔外科学 基礎を講義する。 昭和大学歯学部 講師 (公社)日本口腔外科学会 専門医・指導医						
目的	歯科衛生士として顎・口腔粘膜疾患の診断と治療について理解ができ、特に、口腔外科の概要、顎・口腔領域の病変や疾患について理解を深める。						
科目概要	口腔外科疾患の原因、主要症状、治療法や、歯科麻酔に関する知識を習得し、歯科臨床に応用できる。						
到達目標	口腔外科領域の疾患についての特徴、診断法、治療法について説明できる。 口腔病変と全身疾患との関連について概説できる。 歯科治療時に注意が必要な疾患について説明できる。						
評価方法	学則に定める評価とする。100点～90点A (4.0)、89点～80点B (3.0)、79点～70点C (2.0)、69点～60点D (1.0)、59点以下を不合格とする。 ()は、GPA。欠席日数が学則に定める授業時間数の3分の1を超える者は、試験を受けることができない。 ■ 筆記試験 □ 口頭試験 □ 実技試験 □ 論文 □ レポート						
教科書	口腔外科・歯科麻酔学 (医歯薬出版)		事前事後 学習と その内容	毎回の授業内容についてはあらかじめ予習を行うのが望ましい。 加えて、当日の授業内容については、ノート、教科書を見ながら必ず復習すること。毎回の授業終了時に当日の講義内容に関する小テストを行う。			
参考図書	必要に応じて、授業内で紹介する。						
特記事項	なし。						

授 業 計 画

回数	授業テーマ	授業形態	授業内容
1	口腔病変と全身疾患の関係	講義	口腔外科の概要 口腔外科の対象とする疾患 診断と治療 口腔領域の解剖 口腔の組織の役割 加齢に伴う変化 口腔病変を発現する全身疾患と主な症状
2	口腔領域の発育と先天異常	講義	顎・口腔領域の先天異常と発育異常 歯の発育異常 放出時期、歯数、萌出位置・方向、歯の形態・大きさ 口腔軟組織の先天異常と発育異常、口唇裂、口蓋裂、顎の先天異常と発育異常
3	口腔領域の外傷	講義	顎・口腔領域の損傷および機能障害 軟組織の損傷、機械的、温度的、化学的、放射線、電氣的、気腫 歯および歯槽の外傷、歯の脱臼、歯の破折 顎骨骨折、骨折の治療
4	口腔粘膜の病変	講義	口腔粘膜病変① 水疱を形成する疾患 紅斑およびびらんがみられる疾患 潰瘍を形成する疾患 白斑が特徴の疾患
5	口腔粘膜の病変と全身の疾患の関わり	講義	口腔粘膜病変② 色素沈着がみられる疾患 口腔乾燥がみられる疾患 血液疾患と関連する口腔粘膜病変 その他の粘膜病変
6	顎・口腔領域の炎症性疾患	講義	顎・口腔領域の化膿性炎症疾患 歯周組織の炎症 顎骨の炎症 顎骨周囲組織の炎症
7	顎・口腔領域の嚢胞性疾患	講義	顎・口腔領域の嚢胞性疾患 顎骨に発生する嚢胞 軟組織に発生する嚢胞
8	定期試験		筆記試験 講義内容全範囲から出題する。

科目名 (英)	歯科矯正学 基礎 Basic Orthodontics	年次	2	必修科目	実務経験	科目 責任者	鬼松 美菜子
		授業形態	講義		有		
学科・コース	歯科衛生士科 I 部	時間数	15	授業回数	8	開講区分	前期
		単位	1			曜日/時間	月/1.2限
講師紹介	歯科医師として臨床経験や大学教員の教育経験を踏まえ、歯科衛生士に必要な歯科矯正学 基礎を講義する。 【所属: 昭和大学歯学部 歯科矯正学講座】・【専門分野: 歯科矯正学】・【所属学会: 日本矯正歯科学会、など】・【研究: 唇顎口蓋裂、など】						
目的	歯科疾患の全身的要因、生活習慣、社会的要因および環境要因リスクを知り、リスクを取り除くことにより、口腔の健康と機能の維持増進をはかり、人々の健康状態と生活の質を向上させることのできる歯科衛生士として社会貢献できるよう知識習得を目的とする。						
科目概要	歯科矯正学の基礎知識の習得と矯正歯科治療における歯科衛生士の業務及び役割について理解する。						
到達目標	矯正歯科治療の概要について説明できる。 矯正歯科治療に係る成長・発育、正常咬合と不正咬合、診断に必要な知識、メカニズムについて説明できる。 矯正歯科臨床で用いる矯正装置、器具・器械を説明出来ると共に、歯科衛生士の役割を理解する。						
評価方法	学則に定める評価とする。100点～90点A (4.0)、89点～80点B (3.0)、79点～70点C (2.0)、69点～60点D (1.0)、59点以下を不合格とする。 ()は、GPA。欠席日数が学則に定める授業時間数の3分の1を超える者は、試験を受けることができない。 ■ 筆記試験 □ 口頭試験 □ 実技試験 □ 論文 □ レポート						
教科書	歯科矯正学 (医歯薬出版)			事前事後 学習と その内容	教科書や講義資料を使用し、授業毎の予習・復習を行うこと。講義内容で分からないことは、質問すること。		
参考図書	第4版ポイントチェック歯科衛生士国家試験対策④						
特記事項	講義内容(PowerPoint)をスマホキャンパス内にアップする。						

授 業 計 画

回数	授業テーマ	授業形態	授業内容
1	I 編 矯正歯科治療に関する基礎知識	講義	矯正歯科治療の概要を理解する。
2	I 編 矯正歯科治療に関する基礎知識	講義	成長発育を理解する。
3	I 編 矯正歯科治療に関する基礎知識	講義	正常咬合と不正咬合を理解する。
4	I 編 矯正歯科治療に関する基礎知識	講義	矯正歯科診断を理解する。
5	I 編 矯正歯科治療に関する基礎知識	講義	矯正歯科治療と“力”-矯正力・顎整形力・保定-を理解する。
6	I 編 矯正歯科治療に関する基礎知識	講義	矯正装置を理解する。
7	I 編 矯正歯科治療に関する基礎知識	講義	I 編の講義内容の復習する。
8	定期試験		筆記試験 講義内容の全範囲から出題する。

科目名 (英)	小児・障がい者学 基礎 Pedodontics・Handi capped Person Dentistry	年次	2	必修科目	実務経験	科目 責任者	佐藤 昌史
		授業形態	講義		有	開講区分	
学科・コース	歯科衛生士科 I 部	時間数	15	授業回数	8		曜日/時間
		単位	1			月/3.4限	
講師紹介	歯科医師としての臨床経験や大学教員でもある教育経験を踏まえ、歯科衛生士に必要な小児・障がい者学 基礎を講義する。 昭和大学歯学部小児成育歯科学講座の専任教員として30数年、小児・障がい者歯科臨床に携わる。 H31より目白大学短期大学部歯科衛生学科専任教員 日本小児歯科学会(元専門医・指導医) 日本障害者歯科学会(元認定医・指導医)						
目的	歯科疾患の全身的要因、生活習慣、社会的要因および環境要因リスクを知り、リスクを取り除くことにより、口腔の健康と機能の維持増進をはかり、人々の健康状態と生活の質を向上させることのできる歯科衛生士として社会貢献できるよう知識習得を目的とする。						
科目概要	発育過程にある小児の心身の成長変化について理解するとともに小児の歯科医療の特性を知り、口腔保健の重要性や口腔疾患の予防、治療についての知識を深める。						
到達目標	1. 小児の特徴および心身の発育を説明できる。2. 乳歯および幼若永久歯の特徴を説明できる。3. 乳歯列・咬合の特徴と永久歯列への交換の概要を説明できる。4. 乳歯および幼若永久歯の齲蝕について臨床的特徴を説明できる。5. 小児歯科治療の概要を説明できる。6. 小児の心理状態に配慮した対応時の留意点や行動調整を説明できる。						
評価方法	学則に定める評価とする。100点～90点A (4.0)、89点～80点B (3.0)、79点～70点C (2.0)、69点～60点D (1.0)、59点以下を不合格とする。 ()は、GPA。欠席日数が学則に定める授業時間数の3分の1を超える者は、試験を受けることができない。 <input checked="" type="checkbox"/> 筆記試験 <input type="checkbox"/> 口頭試験 <input type="checkbox"/> 実技試験 <input type="checkbox"/> 論文 <input type="checkbox"/> レポート						
教科書	小児歯科学 (医歯薬出版)	事前事後 学習と その内容		予習としてに当日の学習項目について教科書に目を通す(30分)。 復習としてノートした重要項目を読み返す(30分)。			
参考図書	全国歯科衛生士協議会						
特記事項	視覚教材(スライド) 人物や症例に関して基本的に写真撮影は不可とする。						

授 業 計 画			
回数	授業テーマ	授業形態	授業内容
1	小児歯科治療の特性 小児の心身発育の概要(1)	講義	小児歯科治療の特性を知り、小児期の分類、小児期の身体発育の概要を理解する。
2	小児の心身の発育の概要(2) 頭部(特に顔面頭蓋)の発育	講義	小児の精神発達および生理的特徴を理解する。 顔面部(上顎・下顎)の発育パターンの概要について理解する。
3	乳歯・幼若永久歯の特徴と異常	講義	乳歯および幼若永久歯の特徴を知るとともに見られることのある歯の異常について理解する。
4	歯列と咬合の発育変化	講義	乳歯列の歯並びの咬合の特徴を知り、どのように永久歯列に変化していくのかを理解する。
5	小児期に見られる歯科疾患	講義	乳歯・幼若永久歯の齲蝕の特徴、小児期の歯周疾患および口腔軟組織疾患の概要について理解する。
6	小児歯科診療時の留意点 小児患者への対応法	講義	小児患者への診療補助時の注意点や診療時の小児の心理状態を理解し、基本的な対応法について理解する。
7	小児歯科治療の概要と治療手順・方法	講義	乳歯・幼若永久歯の各種歯科治療の特徴と概要、成人歯科との相違点などについて理解する。
8	定期試験		筆記試験 講義内容の全範囲から出題する。

科目名 (英)	口腔衛生管理 Oral Cavity Care Technology	年次	2	必修科目	実務経験	科目 責任者	デンタルサポート株式会社 城 明妙
		授業形態	講義		有		
学科・コース	歯科衛生士科 I 部	時間数	15	授業回数	8	開講区分	後期
		単位	1			曜日/時間	火/1,2限
講師紹介	訪問歯科診療や施設での歯科衛生士業務、嚥下評価の臨床経験を持つ歯科衛生士が口腔衛生管理を講義する。現在は、歯科衛生士学校の講義及び、様々な場所や多職種において口腔ケアに関する研修を実施している。						
目的	歯科外来のみならず、訪問歯科診療、高齢者施設、デイサービスなど様々な場面での口腔管理が必要となっている。その目的と効果、実践方法を習得することを目的としている。						
科目概要	要介護者、高齢者にとって口腔の衛生管理がなぜ必要か、また、口腔衛生管理では何をすべきかその目的と効果や知識の習得はもちろん、実技の習得を行う。事例から口腔ケア困難者について考え、その対応について学ぶ。多職種連携に必要な情報共有について事例を通し検討する。						
到達目標	要介護者、高齢者、障害者の口腔ケアの目的と効果を知り、適切な口腔衛生管理を行うことができる。また、多職種と連携した口腔衛生管理を行うために必要な記録、情報共有、連携時に必要な知識と技術が習得できる。						
評価方法	学則に定める評価とする。100点～90点A (4.0)、89点～80点B (3.0)、79点～70点C (2.0)、69点～60点D (1.0)、59点以下を不合格とする。 ()は、GPA。欠席日数が学則に定める授業時間数の3分の1を超える者は、試験を受けることができない。 ■ 筆記試験 □ 口頭試験 □ 実技試験 □ 論文 □ レポート						
教科書	パワーポイント出力資料	事前事後 学習と その内容	授業の予習として、次回授業までにシラバスに目を通し、関連する科目の教科書を読んでおく。毎回授業の最後にその日の授業内容の小テストを行う。小テストに出題された問題は重要な部分をピックアップしている為よく復習する。				
参考図書	なし						
特記事項	パワーポイントのテキストプリントは、スマホキャンパス内にアップする。						

授 業 計 画

回数	授業テーマ	授業形態	授業内容
1	要介護者・障がい者、高齢者について	講義	1、要介護者、障がい者を理解する。 2、高齢者、要介護者、障がい者の心身の特徴を理解する。 3、全身疾患について理解する。
2	口腔衛生管理とは	講義	1、口腔衛生管理の目的と効果を理解する。 2、口腔衛生管理で実施する事を理解する。 3、介護保険制度としての口腔衛生管理(施設で行う口腔衛生管理)を理解する。 4、訪問歯科診療を理解する。
3	口腔衛生管理の目的と実施方法	講義	1、口腔衛生管理の目的を理解する。 2、口腔衛生管理の効果を理解する。 3、ADL、BDR指標、OHAT、ROAGと口腔衛生管理(アセスメント)を理解する。
4	口腔衛生管理が困難となる事例①	講義	1、口腔衛生管理が困難となる原因を理解する。 2、口腔衛生管理が困難となったときの対応を理解する。
5	口腔衛生管理が困難となる事例②	講義	1、口腔衛生管理困難事例と対応事例を理解する。 2、認知症について考える。
6	口腔衛生管理の記録と事例検討	講義	1、口腔衛生管理の様々な記録方法を理解する。 2、アセスメントを理解する。 3、事例検討を行い、理解を深める。
7	総まとめ	講義	1、口腔衛生管理に必要な要素を理解する。 2、事例検討を行い、理解を深める。
8	定期試験		筆記試験 講義内容全範囲から出題する。

科目名 (英)	実習指導教育 I Clinical Practice training I	年次	2	必修科目	実務経験	科目 責任者	大原 良子
		授業形態	講義・演習		有	開講区分	
学科・コース	歯科衛生士科 I 部	時間数	30	授業回数	15		曜日/時間
		単位	2			7月より実施予定	
講師紹介	歯科機械メーカー、歯科医院に勤務、歯牙及び口腔の疾患の予防に取り組み健康増進に携わってきた。 歯科衛生士としての臨床経験を有した講師が教員経験を踏まえ、臨地実習に必要な身構え、気構え、心構え、知識や技術を習得できるように実習指導教育 I の講義・演習を行う。						
目的	臨地・臨床実習に必要な、知識・技術・態度を身につけることにより、臨地・臨床実習の準備を行う。						
科目概要	専門知識だけではなく、実習生としてふさわしい態度や考え方(身構え、気構え、心構え)を臨床実習要綱にそって実践できるようになる。						
到達目標	実習の流れや術式を理解した歯科診療の補助ができるようになり、不安なく登院することができる。 実習要綱読み合わせ・実習先挨拶を行い、実習ノートの作成をすることができる。 業界からの信頼を得るための技術・知識・スキル・考え方・マナーを習得する。						
評価方法	学則に定める評価とする。100点～90点A(4.0)、89点～80点B(3.0)、79点～70点C(2.0)、69点～60点D(1.0)、59点以下を不合格とする。 ()は、GPA。欠席日数が学則に定める授業時間数の3分の1を超える者は、試験を受けることができない。 <input type="checkbox"/> 筆記試験 <input type="checkbox"/> 口頭試験 <input type="checkbox"/> 実技試験 <input type="checkbox"/> 論文 <input checked="" type="checkbox"/> レポート						
教科書	新人歯科衛生士・歯科助手ポケットマニュアル (医歯薬出版)			事前事後 学習と その内容	臨地実習に向け、必要な身構え、気構え、心構え、知識や技術を習得できるように予習・復習を行うこと。		
参考図書	Hand-book of Life Style 他						
特記事項	実習指導要綱						

授 業 計 画			
回数	授業テーマ	授業形態	授業内容
1	臨地実習までの流れ①	講義	臨地実習についてアンケート実施。臨地実習までの流れを理解できる。
2	臨地実習までの流れ②	演習	3年生からの臨床実習に向けてのアドバイス、グループワークを通して、臨地実習に向け何が必要か明確にできる。
3	実習希望アンケート	講義	臨地実習配属とアンケートの記入方法についての説明をうけ、希望アンケートを提出する。
4	実習指導要綱	講義	実習指導要綱の説明を受け、基本のルールを理解できる。
5	実習指導要綱	講義	実習指導要綱の説明を受け、基本のルールを理解できる。
6	実習ノート記入①	講義	実習ノート作成について、記入の仕方を理解できる。
7	実習ノート記入②	講義	実習ノート作成について、記入の仕方を理解できる。
8	臨地実習への準備 GC企業見学	講義	業界と直結した職業人教育のため、臨地現場で求められている最新の歯科材料に触れ知識と技術を向上させる。ホワイトニング実習・シリコン実習・石膏実習を実践できる。
9	臨地実習への準備 配属先発表	講義	I 期臨床実習配属先発表し、ペア毎にグループワークを行う。実習定期の申請について説明を受け、正しく記入し提出できる。
10	臨地実習への準備 身構え気構え心構え	講義	挨拶・言葉遣い・電話のかけ方・お礼状の書き方を理解できる。リクルートスタイル、実習時の身だしなみを整えることができる。(チェック)
11	臨地実習への準備(業界講演) 身構え気構え心構え	講義	指導歯科衛生士 平 早由加先生 臨地実習の一日の流れを具体的にイメージすることができる。
12	臨地実習への準備(業界講演) 身構え気構え心構え	講義	指導歯科衛生士 平 早由加先生 臨地実習に向け、必要な身構え、気構え、心構えを理解できる。
13	臨地実習への準備 事例検討	講義	偶発事故・患者急変・血液曝露後の対応について理解する。 あるある事例検討を行い、対応方法を考え行動できるようになる。
14	臨地実習スタートへの節目 登院式	演習	登院式に望み臨地実習登院への決意を固めることができる。
15	定期試験		レポート作成、提出。

科目名 (英)	歯科衛生士総合講座 基礎Ⅱ Basic Comprehensive Studies for Dental HygienistsⅡ	年次	2	必修科目	実務経験	科目 責任者	三觥 雅子/古平 衣美
		授業形態	講義		有	開講区分	
学科・コース	歯科衛生士科Ⅰ部	時間数	15	授業回数	8		曜日/時間
		単位	1			木/1,2限	
講師紹介	三觥 雅子: 歯科医師としての臨床経験や大学教員の教育経験を踏まえ、歯科衛生士に必要な知識を講義する。 歯学博士 新東京歯科衛生士学校副校長 昭和大学歯学部兼任講師 日本口腔外科学会認定口腔外科専門医 口腔内科学会 古平 衣美: 歯科医師としての臨床経験や大学教員の教育経験を踏まえ、歯科衛生士に必要な知識を講義する。 歯学博士 昭和大学スペシャルニーズリハビリテーション科特別普通研究員 口腔リハビリテーション学会 MFT学会 臨床心理カウンセラー						
目的	歯科疾患を理解し問診、診査、診断、治療法の選択、治療に必要な器材など治療の目的や意義、流れを理解する。						
科目概要	・臨床実習に向け実践に活かすため、問診を始め患者情報収集法を経験する。 ・全身疾患別に理解を深める。1年時の理解を確実にする。自主学習により課題発見や問題解決力を養う。 ・グループ検討により発表形式を行うことでコミュニケーション力やプレゼンテーション力を身に着ける。						
到達目標	臨床実習先で見学した症例の内容を深く理解することができる。						
評価方法	学則に定める評価とする。100点～90点A (4.0)、89点～80点B (3.0)、79点～70点C (2.0)、69点～60点D (1.0)、59点以下を不合格とする。 ()は、GPA。欠席日数が学則に定める授業時間数の3分の1を超える者は、試験を受けることができない。 <input checked="" type="checkbox"/> 筆記試験 <input type="checkbox"/> 口頭試験 <input type="checkbox"/> 実技試験 <input type="checkbox"/> 論文 <input type="checkbox"/> レポート						
教科書	各教科の教科書 臨床実習ノート			事前事後 学習と その内容	代表的な症例について、事前学習を行うことにより、授業での習熟度が高まる。		
参考図書	今までに使用したノートや教科書						
特記事項	【プリント(補助教材)】 随時配布 2年時と3年時の講座で計6症例の検討を行う。						

授 業 計 画

回数	授業テーマ	授業形態	授業内容
1	概略説明 グループ分けと症例決め。 (一人ずつ一症例を挙げるが、診療科目が重ならないようにする。)	講義	保存修復症例、補綴症例、小児歯科症例、矯正症例、口腔外科症例、歯周・歯周外科症例の計6症例を3年時までに各班発表を行う。 第一症例をグループで相談して決める。
2	実習で見学した内容の熟考 症例の診断名、治療の目的、治療の手順、使用器具、症例の問題点	講義	症例ノートに記入する。 症例に関して理解を深める。 発表用パワーポイントを作成する。
3	1症例検討	講義	症例に関して課題を考える。 アクティブラーニングでグループ作業を行う。 発表用パワーポイントを完成させる。
4	1症例発表	講義	各班症例発表を行う。 発言力、聞く力を養う。
5	2症例検討	講義	症例ノートに記入する。 症例に関して理解を深める。 発表用パワーポイントを作成する。
6	2症例検討	講義	症例に関して課題を考える。 アクティブラーニングでグループ作業を行う。 発表用パワーポイントを完成させる。
7	2症例発表	講義	各班症例発表を行う。 発言力、聞く力を養う。
8	定期試験		筆記試験 発表症例に関する国家試験過去問と理解度を確認するために筆記試験を行う。

科目名 (英)	国際教育 International Education	年次	2	選択科目	実務経験	科目 責任者	大原 良子
		授業形態	演習		無		
学科・コース	歯科衛生士科 I 部	時間数	15	授業回数	8	開講区分	後期
		単位	1			曜日/時間	10月中旬予定
講師紹介	歯科機械メーカー、歯科医院に勤務、歯牙及び口腔の疾患の予防に取り組み健康増進に携わってきた。歯科衛生士としての臨床経験を有した講師が教員経験を踏まえ、国際教育の講義・演習を行う。						
目的	異文化への理解を深めることにより国際的に活躍できる歯科医療人材としての観点をもてるようになる。						
科目概要	国際的なボランティア活動の内容を知り、広い視野で物事を捉える国際的な感性を養い、グローバルな人材について興味を持つ。						
到達目標	国際的なボランティア活動について理解する。 各国の文化、歯科事情、歯科衛生士の業務内容について理解する。						
評価方法	学則に定める評価とする。100点～90点A (4.0)、89点～80点B (3.0)、79点～70点C (2.0)、69点～60点D (1.0)、59点以下を不合格とする。 ()は、GPA。欠席日数が学則に定める授業時間数の3分の1を超える者は、試験を受けることができない。 ■ 筆記試験 □ 口頭試験 □ 実技試験 □ 論文 □ レポート						
教科書	なし。			事前事後 学習と その内容	日常生活においても積極的に文化に関わり、興味関心を持つこと。		
参考図書	必要に応じて、授業内で紹介する。						
特記事項	なし。						

授 業 計 画			
回数	授業テーマ	授業形態	授業内容
1	各国の文化	演習	興味関心のある国を選択し文化について調べまとめ理解を深める。
2	各国の歯科事情	演習	興味関心のある国を選択し歯科事情について調べまとめ理解を深める。 グループ毎に発表を実施する。
3	国際ボランティア①	演習	世界の現状や課題、国際協力について知り、理解を深める。 これまでの開発途上国での国際協力について考える。
4	国際ボランティア②	演習	ラオスにて歯科医療ボランティアに従事する、歯科衛生士の体験を通じて歯科医療事情についての理解を深める。
5	オンライン海外研修①	演習	スウェーデンの文化について理解を深める。
6	オンライン海外研修②	演習	スウェーデンの歯科事情について理解を深める。
7	オンライン海外研修③	演習	スウェーデンのデンタルクリニック オンライン視察 歯科衛生士業務について理解を深める。
8	定期試験		レポート作成、提出。